

法律新報號外



修正  
商法  
草案

修正  
民法  
草案

修正  
法例  
草案

(親族編)



修正法例草案

法例別冊ノ通之ヲ定ム

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十三年法律第九十七號法例ハ此法律發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

# 法例

第一條 法律ハ公布ノ日ヨリ起算シ滿二十日ヲ經テ之ヲ施行ス但法律ヲ以テ之ニ異ナリタル施行時期ヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス

臺灣、北海道、沖繩縣其他島地ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ施行時期ヲ定ムルコトヲ得

第二條 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサル慣習ハ法令ノ規定ニ依リテ認メタルモノ及ヒ法令ニ規定ナキ事項ニ關スルモノニ限リ法律ト同一ノ效力ヲ有ス

第三條 人ノ能力ハ其本國法ニ依リテ之ヲ定ム

外國人カ日本ニ於テ法律行為ヲ爲シタル場合ニ於テ其外國人カ本國法ニ依レハ無能力者タルトキト雖モ日本ノ法律ニ依レハ能力者タルヘキトキハ前項ノ規定ニ拘ハラヌ之ヲ能力者ト看做ス

前項ノ規定ハ親族法又ハ相續法ノ規定ニ依ルヘキ法律行為及ヒ外國ニ在ル不動産ニ關スル法律行為ニ付テハ之ヲ適用セス

第四條 禁治産ノ原因ハ禁治産者ノ本國法ニ依リ其宣告ノ效力ハ宣告ヲ爲シタル國ノ法律ニ依ル

法例

日本ニ住所又ハ居所ヲ有スル外國人ニ付キ其本國法ニ依リ禁治産ノ原因アルトキハ裁判所  
ハ其者ニ對シ禁治産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得但日本ノ法律カ其原因ヲ認メサルトキハ此限ニ  
在ラス

第五條 前條ノ規定ハ準禁治産ニ之ヲ準用ス

第六條 外國人ノ生死カ分明ナラサル場合ニ於テハ裁判所ハ日本ニ在ル財産及ヒ日本ノ法律  
ニ依ルヘキ法律關係ニ付テノ民法ノ規定ニ從ヒテ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

第七條 法律行為ノ成立及ヒ效力ニ付テハ當事者ノ意思ニ從ヒ其何レノ國ノ法律ニ依ルヘキ  
カヲ定ム  
當事者ノ意思カ分明ナラサルトキハ行為地法ニ依ル

第八條 法律行為ノ方式ハ其行為ノ效力ヲ定ムル法律ニ依ル  
行為地法ニ依リタル方式ハ前項ノ規定ニ拘ハラズ之ヲ有效トス但物權其他登記スヘキ權利  
ヲ設定シ又ハ處分スル法律行為ニ付テハ此限ニ在ラス

第九條 法律ヲ異ニスル地ニ在ル者ニ對シテ爲シタル意思表示ニ付テハ其通知ヲ發シタル地  
ヲ行為地ト看做ス  
契約ノ成立及ヒ效力ニ付テハ申込ノ通知ヲ發シタル地ヲ行為地ト看做ス若シ其申込ヲ受ケ

タル者カ承諾ヲ爲シタル當時申込ノ發信地ヲ知ラザリトキハ申込者ノ住所地ヲ行為地ト  
看做ス  
第十條 動産及ヒ不動産ニ關スル物權其他登記スヘキ權利ハ其目的物ノ所在地法ニ依ル  
前項ニ掲ケタル權利ノ得喪ハ其原因タル事實ノ完成シタル當時ニ於ケル目的物ノ所在地法  
ニ依ル

第十一條 事務管理、不當利得又ハ不法行為ニ因リテ生スル債權ノ成立及ヒ效力ハ其原因  
ル事實ノ發生シタル地ノ法律ニ依ル  
前項ノ規定ハ不法行為ニ付テハ外國ニ於テ發生シタル事實カ日本ノ法律ニ依レハ不法ナラ  
サルトキハ之ヲ適用セズ

外國ニ於テ發生シタル事實カ日本ノ法律ニ依リテ不法ナルトキト雖モ被害者ハ日本ノ法律  
カ認メタル損害賠償其他ノ處分ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第十二條 債權讓渡ノ第三者ニ對スル效力ハ債務者ノ住所地法ニ依ル  
第十三條 婚姻成立ノ要件ハ各當事者ニ付キ其本國法ニ依リテ之ヲ定ム但其方式ハ婚姻舉行  
地ノ法律ニ依ル

前項ノ規定ハ民法第七百七十六條ノ適用ヲ妨ケス

第十四條 婚姻ノ效力ハ夫ノ本國法ニ依ル

外國人カ女戸主ト入夫婚姻ヲ爲シ又ハ外國人カ日本人ノ婿養子ト爲リタル場合ニ於テハ婚姻ノ效力ハ日本ノ法律ニ依ル

第十五條 夫婦財產制ハ婚姻ノ當時ニ於ケル夫ノ本國法ニ依ル

外國人カ女戸主ト入夫婚姻ヲ爲シ又ハ外國人カ日本人ノ婿養子ト爲リタル場合ニ於テハ夫婦財產制ハ日本ノ法律ニ依ル

第十六條 離婚ハ其原因タル事實ノ發生シタル時ニ於ケル夫ノ本國法ニ依ル但裁判所ハ其原因タル事實カ日本ノ法律ニ依ルモ離婚ノ原因タルトキニ非サレハ離婚ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 子ノ嫡出ナルヤ否ヤハ其出生ノ當時母ノ夫ノ屬シタル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム

若シ其夫カ子ノ出生前ニ死亡シタルトキハ其最後ニ屬シタル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム

第十八條 私生子認知ノ要件ハ其父又ハ母ニ關シテハ認知ノ當時父又ハ母ノ屬スル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム其子ニ關シテハ認知ノ當時子ノ屬スル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム

第十九條 養子縁組ノ要件ハ各當事者ニ付キ其本國法ニ依リテ之ヲ定ム

養子縁組ノ效力及ヒ離縁ハ養親ノ本國法ニ依ル

第二十條 親子間ノ法律關係ハ父ノ本國法ニ依ル若シ父アラザルトキハ母ノ本國法ニ依ル

第二十一條 扶養ノ義務ハ扶養義務者ノ本國法ニ依リテ之ヲ定ム

第二十二條 前九條ニ掲ケタルモノノ外親族關係及ヒ之ニ因リテ生スル權利義務ハ當事者ノ本國法ニ依リテ之ヲ定ム

第二十三條 後見ハ被後見人ノ本國法ニ依ル

日本ニ住所又ハ居所ヲ有スル外國人ノ後見ハ其本國法ニ依レハ後見開始ノ原因アルモ後見ノ事務ヲ行フ者ナキトキ及ヒ日本ニ於テ禁治産ノ宣告アリタルトキニ限り日本ノ法律ニ依ル

第二十四條 前條ノ規定ハ保佐ニ之ヲ準用ス

第二十五條 相続ハ被相続人ノ本國法ニ依ル

第二十六條 遺言ノ成立及ヒ效力ハ其成立ノ當時ニ於ケル遺言者ノ本國法ニ依ル遺言ノ取消ハ其當時ニ於ケル遺言者ノ本國法ニ依ル

前二項ノ規定ハ遺言ノ方式ニ付キ行爲地法ニ依ルコトヲ妨ケス

第二十七條 當事者ノ本國法ニ依ルヘキ場合ニ於テ其當事者カ二個以上ノ國籍ヲ有スルトキ

ハ最後ニ取得シタル國籍ニ依リテ其「本」國「法」ヲ定ム但其一カ日本ノ國籍ナルトキハ日本ノ法律ニ依ル

國籍ヲ有セサル者ニ付テハ其住所地法ヲ以テ本國法ト看做ス其住所カ知レサルトキハ其居所地法ニ依ル

地方ニ依リ法律ヲ異ニスル國ノ人民ニ付テハ其者ノ屬スル地方ノ法律ニ依ル

第二十八條 當事者ノ住所地法ニ依ルヘキ場合ニ於テ其住所カ知レサルトキハ其居所地法ニ依ル前條第一項及ヒ第三項ノ規定ハ當事者ノ住所地法ニ依ルヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 當事者ノ本國法ニ依ルヘキ場合ニ於テ其國ノ法律ニ從ヒ日本ノ法律ニ依ルヘキトキハ日本ノ法律ニ依ル

第三十條 外國法ニ依ルヘキ場合ニ於テ其規定カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルトキハ之ヲ適用セス

法例修正案理由書

疊ニ制定シタル法例ハ穩當ヲ缺ク規定拙カラサルカ故ニ其修正ヲ行ハソカ爲メ明治二十五年法律第八號ヲ以テ其施行ヲ延期セラレタリ爾來政府ハ法典調査會ヲ設ケ周密慎重ナル調査ヲ遂ケ以テ本案ヲ編製シ茲ニ之ヲ提出スルニ至ル本案ハ之ヲ舊法ニ比スレハ不穩當ナル規定ヲ除キ新ニ必要ナル規定ヲ加ヘ其他改良ヲ施シタル點拙カラスト信ス

修正民法草案

親族編  
相續編



# 民法

## 第四編 親族

### 第一章 總則

### 第二章 戶主及家族

#### 第一節 總則

#### 第二節 戶主及家族ノ權利義務

#### 第三節 戶主權ノ喪失

### 第三章 婚姻

#### 第一節 婚姻ノ成立

##### 第一款 婚姻ノ要件

##### 第二款 婚姻ノ無效及ヒ取消

#### 第二節 婚姻ノ效力

#### 第三節 夫婦財產制

##### 第一款 總則

民法 目次

一 同 同 十 十 同 同 九 六 五 同 二 同 一  
丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁

第二款	法定財產制	十五丁
第四節	離婚	十七丁
第一款	協議上ノ離婚	同丁
第二款	裁判上ノ離婚	十八丁
第四章	親子	二十丁
第一節	親子	同丁
第一款	嫡出子	同丁
第二款	庶子及私生子	二十一丁
第二節	養子	二十二丁
第一款	緣組ノ要件	二十三丁
第二款	緣組ノ無效及取消	二十五丁
第三款	緣組ノ效力	二十七丁
第四款	離緣	同丁
第五章	親權	三十二丁
第一節	總則	同丁

第二節	親權ノ效力	三十一丁
第三節	親權ノ喪失	三十五丁
第六章	後見	三十六丁
第一節	後見ノ開始	同丁
第二節	後見ノ機關	同丁
第一款	後見人	同丁
第二款	後見監督人	三十八丁
第三款	後見ノ事務	四十丁
第四節	後見ノ終了	四十四丁
第七章	親族會	四十五丁
第八章	扶養ノ義務	四十七丁
第五編	相續	五十一丁
第一章	家督相續	同丁
第一節	總則	同丁

民法 目次

第二節	家督相続人	五十二丁
第三節	家督相続ノ效力	五十七丁
第二章	遺産相続	五十八丁
第一節	總則	同 丁
第二節	遺産相続人	同 丁
第三節	遺産相続ノ效力	六十丁
第一款	總則	同 丁
第二款	相続分	同 丁
第三款	遺産ノ分割	六十二丁
第三章	相続ノ承認及ヒ拋棄	六十三丁
第一節	總則	同 丁
第二節	承認	六十四丁
第一款	單純承認	同 丁
第二款	限定承認	六十五丁
第三款	拋棄	六十八丁

四

第四章	財産ノ分離	六十八丁
第五章	相続人ノ曠缺	七十一丁
第六章	遺言	七十三丁
第一節	總則	同 丁
第二節	遺言ノ方式	同 丁
第一款	普通方式	同 丁
第二款	特別方式	七十六丁
第三節	遺言ノ效力	七十九丁
第四節	遺言ノ執行	八十三丁
第五節	遺言ノ取消	八十七丁
第七章	遺留分	八十八丁

# 民法

## 第四編 親族

### 第一章 總則

第七百二十五條 左ニ掲ケタル者ハ之ヲ親族トス

- 一 六親等内ノ血族
- 二 配偶者
- 三 三親等内ノ姻族

第七百二十六條 親等ハ親族間ノ世數ヲ算シテ之ヲ定ム

傍系親ノ親等ヲ定ムルコトハ其一人又ハ其配偶者ヨリ同始祖ニ遡リ其始祖ヨリ他ノ一人ニ下ルマテノ世數ニ依ル

第七百二十七條 養子ト養親及ヒ其血族トノ間ニ於テハ養子縁組ノ日ヨリ血族間ニ於ケルト

同一ノ親族關係ヲ生ス

第七百二十八條 繼父母ト繼子ト又嫡母ト庶子トノ間ニ於テハ親子間ニ於ケルト同一ノ親族

關係ヲ生ス

第七百二十九條 姻族關係及ヒ前條ノ親族關係ハ離婚ニ因リテ止ム

夫婦ノ一方カ死亡シタル場合ニ於テ生存配偶者カ其家ヲ去リタルトキ亦同シ

第七百三十條 養子ト養親及ヒ其血族トノ親族關係ハ離婚ニ因リテ止ム

養親カ養家ヲ去リタルトキハ其者及ヒ其實方ノ血族ト養子トノ親族關係ハ之ニ因リテ止ム

養子ノ配偶者、直系卑屬又ハ其配偶者カ養子ノ離婚ニ因リテ之ト共ニ養家ヲ去リタルトキハ其者ト養親及ヒ其血族トノ親族關係ハ之ニ因リテ止ム

第七百三十一條 第七百二十九條第二項及ヒ前條第二項ノ規定ハ本家相續、分家及ヒ廢絶家再興ノ場合ニハ之ヲ適用セズ

第二章 戸主及ヒ家族

第一節 總則

第七百三十二條 戸主ノ親族ニシテ其家ニ在ル者及ヒ其配偶者ハ之ヲ家族トス

戸主ノ變更アリタル場合ニ於テハ舊戸主及ヒ其家族ハ新戸主ノ家族トス

第七百三十三條 子ハ父ノ家ニ入ル  
父ノ知レサル子ハ母ノ家ニ入ル  
父母共ニ知レサル子ハ一家ヲ創立ス

第七百三十四條 父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離婚ニ因リテ其家ヲ去リタルトキハ前條第一項ノ規定ハ懷胎ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス但父母カ共ニ其家ヲ去リタルトキハ此限ニ在ラス

第七百三十五條 家族ノ庶子及ヒ私生子ハ戸主ノ同意アルニ非サレハ其家ニ入ルコトヲ得ス

庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキハ母ノ家ニ入ル  
私生子カ母ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキハ一家ヲ創立ス

第七百三十六條 女戸主カ入夫婚姻ヲ爲シタルトキハ入夫ハ其家ノ戸主ト爲ル但當事者カ婚姻ノ當時反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百三十七條 戸主ノ親族ニシテ他家ニ在ル者ハ戸主ノ同意ヲ得テ其家族ト爲ルコトヲ得但其者カ他家ノ家族タルトキハ其家ノ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百三十八條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ其配偶者又ハ養親ノ親族ニ非サル自己ノ親族ヲ婚家又ハ養家ノ家族ト爲サント欲スルトキハ前條ノ規定ニ依ル外其配偶者又ハ養親ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

婚家又ハ養家ヲ去リタル者カ其家ニ在ル自己ノ直系卑屬ヲ自家ノ家族ト爲サント欲スルトキ亦同シ

第七百三十九條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者ハ離婚又ハ離婚ノ場合ニ於テ

實家ニ復籍ス

第七百四十條 前條ノ規定ニ依リテ實家ニ復籍スヘキ者カ實家ノ廢絶ニ因リテ復籍ヲ爲スコト能ハサルトキハ一家ヲ創立ス但實家ヲ再興スルコトヲ妨ケス

第七百四十一條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入ラント欲スルトキハ婚家若クハ養家及ヒ實家ノ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ同意ヲ爲サザリシ戸主ハ婚姻又ハ養子縁組ノ日ヨリ一年内ニ豫メ復籍ヲ拒ムコトヲ得

第七百四十二條 離籍セラレタル家族ハ一家ヲ創立ス他家ニ入りタル後復籍ヲ拒マレタル者カ離婚又ハ離縁ニ因リテ其家ヲ去リタルトキ亦同シ

第七百四十三條 家族ハ戸主ノ同意アルトキハ他家ヲ相續シ、分家ヲ爲シ又ハ廢絶シタル本家、分家、同家其他親族ノ家ヲ再興スルコトヲ得但未成年者ハ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百四十四條 法定ノ推定家督相續人ハ他家ニ入り又ハ一家ヲ創立スルコトヲ得ス但本家相續ノ必要アルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ第七百五十條第二項ノ適用ヲ妨ケス

第七百四十五條 夫ガ他家ニ入り又ハ一家ヲ創立シタルトキハ妻ハ之ニ隨ヒテ其家ニ入ル

第二節 戸主及ヒ家族ノ權利義務

第七百四十六條 戸主及ヒ家族ハ其家ノ氏ヲ稱ス

第七百四十七條 戸主ハ其家族ニ對シテ扶養ノ義務ヲ負フ

第七百四十八條 家族カ自己ノ名ニ於テ得タル財産ハ其特有財産トス

戸主又ハ家族ノ執レニ屬スルカ判然セザル財産ハ戸主ノ財産ト推定ス

第七百四十九條 家族ハ戸主ノ意ニ反シテ其居所ヲ定ムルコトヲ得ス

家族カ前項ノ規定ニ違反シテ戸主ノ指定シタル居所ニ在ラサル間ハ戸主ハ之ニ對シテ扶養ノ義務ヲ免ル

前項ノ場合ニ於テ戸主ハ相當ノ期間ヲ定メ其指定シタル場所ニ居所ヲ轉スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ家族カ其催告ニ應セサルトキハ戸主ハ之ヲ離籍スルコトヲ得但其家族カ未成年者ナルトキハ此限ニ在ラス

第七百五十條 家族カ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲スニハ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

家族カ前項ノ規定ニ違反シテ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲シタルトキハ戸主ハ其婚姻又ハ養子縁

民法 親族 戸主及ヒ家族 戸主及ヒ家族ノ權利義務

組ノ日ヨリ一年内ニ離婚ヲ爲シ又ハ復籍ヲ拒ムコトヲ得  
家族カ養子ヲ爲シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ從ヒ離婚セラレタルトキハ其養子ハ養親ニ  
隨ヒテ其家ニ入ル

第七百五十一條 戸主カ其權利ヲ行フコト能ハサルトキハ親族會之ヲ行フ但戸主ニ對シテ親  
權ヲ行フ者又ハ其後見人アルトキハ此限ニ在ラス

第三節 戸主權ノ喪失

第七百五十二條 戸主ハ左ニ掲ケタル條件ノ具備スルニ非サレハ隱居ヲ爲スコトヲ得ス

一 滿六十年以上ナルコト

二 完全ノ能力ヲ有スル家督相續人カ相續ノ單純承認ヲ爲スコト

第七百五十三條 戸主カ疾病、本家ノ相續又ハ再興其他已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ爾後  
家政ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ前條ノ規定ニ拘ハラズ裁判所ノ許可ヲ得テ隱居  
ヲ爲スコトヲ得但法定ノ推定家督相續人アラサルトキハ豫メ家督相續人タルヘキ者ヲ定メ  
其承認ヲ得ルコトヲ要ス

第七百五十四條 戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラント欲スルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ隱居ヲ  
爲スコトヲ得

戸主カ隱居ヲ爲サシテ婚姻ニ因リ他家ニ入ラント欲スル場合ニ於テ戸籍吏カ其届出ヲ受  
理シタルトキハ其戸主ハ婚姻ノ日ニ於テ隱居ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百五十五條 女戸主ハ年齢ニ拘ハラズ隱居ヲ爲スコトヲ得

有夫ノ女戸主カ隱居ヲ爲スニハ其夫ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但夫ハ正當ノ理由アルニ非サ  
レハ其同意ヲ拒ムコトヲ得ス

第七百五十六條 隱居ハ隱居者及ヒ其家督相續人ヨリ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ其效力  
ヲ生ス

第七百五十七條 隱居者ノ親族及ヒ檢事ハ隱居届出ノ日ヨリ三個月内ニ第七百五十二條又ハ

第七百五十三條ノ規定ニ違反シタル隱居ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

女戸主カ第七百五十五條第二項ノ規定ニ違反シテ隱居ヲ爲シタルトキハ夫ハ前項ノ期間内  
ニ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第七百五十八條 隱居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ強迫ニ因リテ隱居ノ届出ヲ爲シタルトキ  
ハ隱居者又ハ家督相續人ハ其詐欺ヲ發見シ又ハ強迫ヲ免レタル時ヨリ一年内ニ隱居ノ取消  
ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但追認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

隱居者又ハ家督相續人カ詐欺ヲ發見セス又ハ強迫ヲ免レサル間ハ其親族又ハ檢事ヨリ隱居

民法 親族 戸主及ヒ家族 戸主權ノ喪失

ノ取消ヲ請求スルコトヲ得但其請求ノ後隠居者又ハ家督相續人カ追認ヲ爲シタルトキハ取消權ハ之ニ因リテ消滅ス

前二項ノ取消權ハ隠居届出ノ日ヨリ十年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第七百五十九條 隠居ノ取消前ニ家督相續人ノ債權者ト爲リタル者ハ其取消ニ因リテ戸主タル者ニ對シテ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得但家督相續人ニ對スル請求ヲ妨ケス

債權者カ債權取得ノ當時隠居取消ノ原因ノ存スルコトヲ知リタルトキハ家督相續人ニ對シテノミ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得家督相續人オ家督相續前ヨリ負擔セル債務及ヒ其一身ニ專屬スル債務ニ付キ亦同シ

第七百六十條 隠居又ハ入夫婚姻ニ因ル戸主權ノ喪失ハ前戸主又ハ家督相續人ヨリ前戸主ノ債權者及ヒ債務者ニ其通知ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ其債權者及ヒ債務者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百六十一條 新ニ家ヲ立テタル者ハ其家ヲ廢シテ他家ニ入ルコトヲ得家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ其家ヲ廢スルコトヲ得但本家ノ相續又ハ再興其他正當ノ事由ニ因リ裁判所ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第七百六十二條 戸主カ適法ニ廢家シテ他家ニ入リタルトキハ其家族モ亦其家ニ入ル

第七百六十三條 戸主ヲ失ヒタル家ニ家督相續人ナキトキハ絶家シタルモノトシ其家族ハ各一家ヲ創立ス但子ハ父ニ隨ヒ又父ノ知レサルトキ、他家ニ在ルトキ若クハ死亡シタルトキハ母ニ隨ヒテ其家ニ入ル  
前項ノ規定ハ第七百四十五條ノ適用ヲ妨ケス

## 第三章 婚姻

### 第一節 婚姻ノ成立

#### 第一款 婚姻ノ要件

第七百六十四條 男ハ滿十七年女ハ滿十五年ニ至ラサレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十五條 配偶者アル者ハ重ネテ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十六條 女ハ前婚ノ取消又ハ取消ノ日ヨリ六個月ヲ經過シタル後ニ非サレハ再婚ヲ爲スコトヲ得ス

女カ前婚ノ取消又ハ取消ノ前ヨリ懷胎セシ場合ニ於テハ其分娩ノ日ヨリ前項ノ規定ヲ適用セス

第七百六十七條 姦通ニ因リテ離婚又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ相姦者ト婚姻ヲ爲スコトヲ得ス



第七百六十八條 直系ノ血族間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

傍系ノ三親等内亦同シ但養子ト養親ノ親族トノ間ハ此限ニ在ラス

第七百六十九條 直系ノ姻族間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス第七百二十九條ノ規定ニ依リ姻族關係カ止ミタル後亦同シ

第七百七十條 養子、其配偶者、直系卑屬又ハ其配偶者ト養親又ハ其直系尊屬トノ間ニ於テハ第七百三十條ノ規定ニ依リ親族關係カ止ミタル後ト雖モ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百七十一條 子カ婚姻ヲ爲スコハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但男ハ滿三十二年女ハ滿二十五年ニ達シタル後ハ此限ニ在ラス

父母ノ一方カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ同意ノミヲ以テ足ル

父母共ニ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ未成年者ハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百七十二條 繼父母又ハ嫡母カ子ノ婚姻ニ同意セサルトキハ子ハ親族會ノ同意ヲ得テ婚姻ヲ爲スコトヲ得

第七百七十三條 禁治產者カ婚姻ヲ爲スコハ其後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

第七百七十四條 婚姻ハ之ヲ戶籍吏ニ届出ツルニ因リテ其效力ヲ生ス

前項ノ届出ハ當事者雙方及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七百七十五條 戶籍吏ハ婚姻カ第七百四十一條第一項、第七百四十四條、第七百五十條第一項、第七百五十四條第二項、第七百六十四條乃至第七百七十二條及ヒ前條第二項ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス但婚姻カ第

七百四十一條第一項又ハ第七百五十條第一項ノ規定ニ違反スル場合ニ於テ戶籍吏カ注意ヲ爲シタルニ拘ハラズ當事者カ其届出ヲ爲サント欲スルトキハ此限ニ在ラス

第七百七十六條 外國ニ在ル日本人間ニ於テ婚姻ヲ爲サント欲スルトキハ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其届出ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第二款 婚姻ノ無効及ヒ取消

第七百七十七條 婚姻ハ左ノ場合ニ限リ無効トス

一 人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ婚姻ヲ爲ス意思ナキトキ

二 當事者カ婚姻ノ届出ヲ爲ササルトキ但其届出カ第七百七十四條第二項ニ掲ケタル條件ヲ缺クニ止マルトキハ婚姻ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第七百七十八條 婚姻ハ後七條ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第七百七十九條 第七百六十四條乃至第七百七十條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ各當事者、其

戸主、親族又ハ檢事ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但檢事ハ當事者ノ一方カ死亡シタル後ハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百六十五條乃至第七百六十七條ノ規定ニ違反シタル婚姻ニ付テハ當事者ノ配偶者又ハ前配偶者モ亦其取消ヲ請求スルコトヲ得

第七百八十條 第七百六十四條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ不適齡者カ適齡ニ達シタルトキハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ス

不適齡者ハ適齡ニ達シタル後尙ホ三個月間其婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ得但適齡ニ達シタル後追認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百八十一條 第七百六十六條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六個月ヲ經過シ又ハ女カ再婚後懐胎シタルトキハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百八十二條 第七百七十一條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキ亦同シ

第七百八十三條 前條ノ取消權ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

- 一 同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者カ婚姻アリタルコトヲ知リタル後又ハ詐欺ヲ發見シ若クハ強迫ヲ免レタル後六個月ヲ經過シタルトキ
  - 二 同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者カ追認ヲ爲シタルトキ
  - 三 婚姻届出ノ日ヨリ二年ヲ經過シタルトキ
- 第七百八十四條 詐欺又ハ強迫ニ因リテ婚姻ヲ爲シタル者ハ其婚姻ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ取消權ハ當事者カ詐欺ヲ發見シ若クハ強迫ヲ免レタル後三個月ヲ經過シ又ハ追認ヲ爲スニ因リテ消滅ス

第七百八十五條 婿養子縁組ノ場合ニ於テハ各當事者ハ縁組ノ無効又ハ取消ヲ理由トシテ婚姻ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但縁組ノ無効又ハ取消ノ請求ニ附帶シテ婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ妨ケス

前項ノ取消權ハ當事者カ縁組ノ無効ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知リタル後三個月ヲ經過シ又ハ其取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス

第七百八十六條 婚姻ノ取消ハ其效力ヲ既往ニ及ボサス  
婚姻ノ當時其取消ノ原因ノ存スルコトヲ知ラザリシ當事者カ婚姻ニ因リテ財産ヲ得タルト

キハ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ其返還ヲ爲スコトヲ要ス  
婚姻ノ當時其取消ノ原因ノ存スルコトヲ知リタル當事者ハ婚姻ニ因リテ得タル利益ノ全部  
ヲ返還スルコトヲ要ス尙ニ相手方カ善意ナリントキハ之ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第二節 婚姻ノ效力

第七百八十七條 妻ハ婚姻ニ因リテ夫ノ家ニ入ル

入夫及ヒ婿養子ハ妻ノ家ニ入ル

第七百八十八條 妻ハ夫ト同居スル義務ヲ負フ

夫ハ妻ヲシテ同居ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第七百八十九條 夫婦ハ互ニ扶養ヲ爲ス義務ヲ負フ

第七百九十條 妻カ未成年者ナルトキハ成年ノ夫ハ其後見人ノ職務ヲ行フ

第七百九十一條 夫婦間ニ於テ契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ婚姻中何時ニテモ夫婦ノ一方  
ヨリ之ヲ取消スコトヲ得但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第三節 夫婦財産制

第一款 總則

七百九十二條 夫婦カ婚姻ノ届出前ニ其財産ニ付キ別段ノ契約ヲ爲サザリントキハ其財産

關係ハ次款ニ定ムル所ニ依ル

第七百九十三條 夫婦カ法定財産制ニ異ナリタル契約ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ届出マテニ其  
登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百九十四條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚  
姻ノ後日本ニ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキハ一年內ニ其契約ヲ登記スルニ  
非サレハ日本ニ於テハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百九十五條 夫婦ノ財産關係ハ婚姻届出後ニ之ヲ變更スルコトヲ得ス  
夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ財産ヲ管理スル場合ニ於テ管理ノ失當ニ因リ其財産ヲ危シクシタル  
トキハ他ノ一方ハ自ラ其管理ヲ爲サンコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

共有財産ニ付テハ前項ノ請求ト共ニ其分割ヲ請求スルコトヲ得

第七百九十六條 前條ノ規定又ハ契約ノ結果ニ依リ管理者ヲ變更シ又ハ共有財産ノ分割ヲ爲  
シタルトキハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ  
得ス

第二款 法定財産制

第七百九十七條 夫ハ婚姻ヨリ生スル一切ノ費用ヲ負擔ス但妻カ戶主タルトキハ妻之ヲ負擔ス

民法 親族 婚姻ノ効力 夫婦財産制

前項ノ規定ハ第七百八十九條及第八章ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第七百九十八條 夫又ハ女戸主ハ用法ニ從ヒ其配偶者ノ財産ノ使用及ヒ收益ヲ爲ス權利ヲ有ス

夫又ハ女戸主ハ其配偶者ノ財産ノ果實中ヨリ其債務ノ利息ヲ拂フコトヲ要ス

第七百九十九條 第五百九十五條及ヒ第五百九十八條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百條 夫ハ妻ノ財産ヲ管理ス

夫カ妻ノ財産ヲ管理スルコト能ハサルトキハ妻自ラ之ヲ管理ス

第八百一條 夫カ妻ノ爲メニ借財ヲ爲シ、妻ノ財産ヲ讓渡シ、之ヲ擔保ニ供シ又ハ第六百二條ノ期間ヲ超エテ其貸貸ヲ爲スハ妻ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス但管理ノ目的ヲ以テ果實ヲ處分スルハ此限ニ在ル

第八百二條 夫カ妻ノ財産ヲ管理スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ妻ノ請求ニ因リ夫ヲシテ其財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第八百三條 日常ノ家事ニ付テハ妻ハ夫ノ代理人ト看做ス

夫ハ前項ノ代理權ノ全部又ハ一部ヲ否認スルコトヲ得但之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

コトヲ得ス

第八百四條 夫カ妻ノ財産ヲ管理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合ニ於テハ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

第八百五條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ夫カ妻ノ財産ヲ管理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八百六條 妻又ハ夫カ婚姻前ヨリ有セル財産及ヒ婚姻中自己ノ名ニ於テ得タル財産ハ其特有財産トス

夫婦ノ孰レニ屬スルカ判然セサル財産ハ夫又ハ女戸主ノ財産ト推定ス

### 第四節 離婚

#### 第一款 協議上ノ離婚

第八百七條 夫婦ハ其協議ヲ以テ離婚ヲ爲スコトヲ得

第八百八條 滿二十五年ニ達セサル者カ協議上ノ離婚ヲ爲スハ第七百七十一條及ヒ第七百七十二條ノ規定ニ依リ其婚姻ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八百九條 第七百七十三條及ヒ第七百七十四條ノ規定ハ協議上ノ離婚ニ之ヲ準用ス

第八百十條 戸籍吏ハ離婚カ第七百七十四條第二項及ヒ第八百八條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

戸籍吏カ前項ノ規定ニ違反シテ届出ヲ受理シタルトキト雖モ離婚ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第八百一十一條 協議上ノ離婚ヲ爲シタル者カ其協議ヲ以テ子ノ監護ヲ爲スヘキ者ヲ定メザリシトキハ其監護ハ父ニ屬ス

父カ離婚ニ因リテ婚家ヲ去リタル場合ニ於テハ子ノ監護ハ母ニ屬ス  
前二項ノ規定ハ監護ノ範圍外ニ於テ父母ノ權利義務ニ變更ヲ生スルコトナシ

第二款 裁判上ノ離婚

第八百一十二條 夫婦ノ一方ハ左ノ場合ニ限リ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

- 一 配偶者カ重婚ヲ爲シタルトキ
- 二 妻カ姦通ヲ爲シタルトキ
- 三 夫カ姦淫罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルトキ
- 四 配偶者カ重禁錮三年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 五 配偶者ヨリ同居ニ堪ヘサル虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 六 配偶者ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ
- 七 配偶者ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ

八 配偶者カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ

九 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

十 婿養子縁組ノ場合ニ於テ離婚アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ

於テ離婚若クハ縁組ノ取消アリタルトキ

第八百一十三條 前條第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ他ノ一方カ他ノ一方ノ行爲ニ同意シ

ルトキハ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

前條第一號乃至第七號ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ他ノ一方又ハ其直系尊屬ノ行爲ヲ宥忍シ

タルトキ亦同シ

第八百一十四條 第八百一十二條第四號ニ掲ケタル處刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其配偶者ノ處刑ヲ

理由トシテ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百一十五條 第八百一十二條第一號乃至第八號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ之ヲ提起スル權利ヲ

有スル者カ離婚ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコト

ヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

第八百一十六條 第八百一十二條第十號ノ場合ニ於テ離婚又ハ縁組取消ノ請求アリタルトキハ之

ニ附帶シテ離婚ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八百十二條第十號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ當事者カ離婚又ハ縁組ノ取消アリタルコトヲ知リタル後三個月ヲ經過シ又ハ離婚請求ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百十七條 第八百十一條ノ規定ハ裁判上ノ離婚ニ之ヲ準用ス但裁判所ハ子ノ利益ノ爲メ其監護ニ付キ之ニ異ナリタル處分ヲ命スルコトヲ得

### 第四章 親子

#### 第一節 實子

##### 第一款 嫡出子

第八百十八條 妻カ婚姻中ニ懐胎シタル子ハ夫ノ子ト推定ス

婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日內ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懐胎シタルモノト推定ス

第八百十九條 第七百六十六條第一項ノ規定ニ違反シテ再婚ヲ爲シタル女カ分娩シタル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ其子ノ父ヲ定ムルコト能ハサルトキハ裁判所之ヲ定ム

第八百二十條 第八百十八條ノ場合ニ於テ夫ハ子ノ嫡出ナルコトヲ否認スルコトヲ得

第八百二十一條 前條ノ否認權ハ子又ハ其法定代理人ニ對スル訴ニ依リ之ヲ行フ但夫カ子

ノ法定代理人ナルトキハ裁判所ハ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス

第八百二十二條 夫カ子ノ出生後ニ於テ其嫡出ナルコトヲ承認シタルトキハ其否認權ヲ失フ

第八百二十三條 否認ノ訴ハ夫カ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ一年內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第八百二十四條 夫カ未成年者ナルトキハ前條ノ期間ハ其成年ニ達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

但夫カ成年ニ達シタル後ニ子ノ出生ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

夫カ禁治産者ナルトキハ前條ノ期間ハ其後見人カ子ノ出生ヲ知リタル時又ハ禁治産ノ取消アリタル後夫カ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

##### 第二款 庶子及ヒ私生子

第八百二十五條 私生子ハ其父又ハ母ニ於テ之ヲ認知スルコトヲ得

父カ認知シタル私生子ハ之ヲ庶子トス

第八百二十六條 私生子ノ認知ヲ爲スニハ父又ハ母カ無能力者ナルトキト雖モ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

第八百二十七條 私生子ノ認知ハ戶籍吏ニ届出ツルニ依リテ之ヲ爲ス

認知ハ遺言ニ依リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第八百二十八條 成年ノ私生子ハ其承諾アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百二十九條 父ハ胎内ニ在ル子ト雖モ之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テハ母ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

父又ハ母ハ死亡シタル子ト雖モ其直系卑屬アルトキハ之ヲ認知スルコトヲ得但其直系卑屬カ成年ニ達シタル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第八百三十條 認知ハ出生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

第八百三十一條 認知ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第八百三十二條 子其他ノ利害關係人ハ認知ニ對シテ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ得

第八百三十三條 子其直系卑屬又ハ此等ノ者ノ法定代理人ハ父又ハ母ニ對シテ認知ヲ求ムルコトヲ得

第八百三十四條 庶子ハ之ヲ認知シタル父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得ス

婚姻中父母カ認知シタル私生子ハ其認知ノ時ヨリ嫡出子タル身分ヲ取得ス

前二項ノ規定ハ子カ既ニ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二節 養子

第一款 縁組ノ要件

第八百三十五條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得

第八百三十六條 尊屬又ハ年長者ハ之ヲ養子ト爲スコトヲ得ス

第八百三十七條 法定ノ推定家督相続人タル男子アル者ハ男子ヲ養子ト爲スコトヲ得ス但女

婿ト爲ス爲メニスル場合ハ此限ニ在ラス

第八百三十八條 後見人ハ其管理ノ計算ヲ終ハラサル間ハ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得ス

但遺言ヲ以テスルハ此限ニ在ラス

第八百三十九條 配偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニ非サレハ縁組ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ子ヲ養子ト爲ス場合ニハ之ヲ適用セス但他ノ一方ノ

承諾ヲ得ルコトヲ要ス

第八百四十條 前條第一項ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ

他ノ一方ハ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲スコトヲ得

第八百四十一條 養子ト爲ルニキ者カ十五年未滿ナルトキハ其家ニ在ル父母之ニ代ハリテ縁

組ノ承諾ヲ爲スコトヲ得

繼父母又ハ嫡母カ前項ノ承諾ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

民法 親族 親子 養子

第八百四十二條 成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八百四十三條 縁組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ入りテ欲スルトキハ實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但妻カ夫ニ隨ヒテ他家ニ入ルハ此限ニ在ラス

第八百四十四條 第七百七十一條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前三條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七百七十二條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百四十五條 第七百七十三條及ヒ第七百七十四條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ準用ス

第八百四十六條 養子ヲ爲サント欲スル者ハ遺言ヲ以テ其意思ヲ表示スルコトヲ得此場合ニ於テハ遺言者死亡ノ後養子ト爲ルヘキ者又ハ第八百四十一條ノ規定ニ依リ之ニ代ハリテ承諾ヲ爲シタル者及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ遲滞ナク縁組ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ届出ハ養親ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第八百四十七條 戶籍吏ハ縁組カ第七百四十一條第一項、第七百四十四條、第七百五十條第一項及ヒ前十二條ノ規定其他ノ法令ニ違反セザルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

第七百七十五條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百四十八條 外國ニ在ル日本人間ニ於テ縁組ヲ爲サント欲スルトキハ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其届出ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ第七百七十四條及ヒ前二條ノ規定ヲ準用ス

第二款 縁組ノ無効及ヒ取消

第八百四十九條 縁組ハ左ノ場合ニ限り無効トス

- 一 人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ縁組ヲ爲ス意思ナキトキ
- 二 當事者カ縁組ノ届出ヲ爲サルトキ但其届出カ第七百七十四條第二項及ヒ第八百四十六條第一項ニ掲ケタル條件ヲ缺クニ止マルトキハ縁組ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラ

第八百五十條 縁組ハ後七條ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第八百五十一條 第八百三十五條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ養親又ハ其法定代理人ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但養親カ成年ニ達シタル後六個月ヲ經過シ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第八百五十二條 第八百三十六條又ハ第八百三十七條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ各當事者、



其戸主又ハ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第八百五十三條 第八百三十八條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ養子又ハ其實方ノ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但管理ノ計算カ終ハリタル後養子カ追認ヲ爲シ又ハ六ヶ月ヲ経過シタルトキハ此限ニ在ラス

追認ハ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

養子カ成年ニ達セス又ハ能力ヲ回復セサル間ニ管理ノ計算カ終ハリタル場合ニ於テハ第一項但書ノ期間ハ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百五十四條 第八百三十九條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ承諾ヲ爲サザリシ配偶者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但其配偶者カ縁組アリタルコトヲ知リタル後六ヶ月ヲ経過シタルトキハ追認ヲ爲シタルモノト看做ス

第八百五十五條 第八百四十二條乃至第八百四十四條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキ亦同シ

第七百八十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百五十六條 婿養子縁組ノ場合ニ於テハ各當事者ハ婚姻ノ無効又ハ取消ヲ理由トシテ縁

組ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但婚姻ノ無効又ハ取消ノ請求ニ附帯シテ縁組ノ取消ヲ請求スルコトヲ妨ケス

前項ノ取消權ハ當事者カ婚姻ノ無効ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知リタル後六ヶ月ヲ経過シ又ハ其取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス

第八百五十七條 第七百八十四條及ヒ第七百八十六條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ準用ス但第七百八十四條第二項ノ期間ハ之ヲ六ヶ月トス

第三款 縁組ノ效力

第八百五十八條 養子ハ縁組ノ日ヨリ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得ス

第八百五十九條 養子ハ縁組ニ因リテ養親ノ家ニ入ル

第四款 離縁

第八百六十條 縁組ノ當事者ハ其協議ヲ以テ離縁ヲ爲スコトヲ得

養子カ十五年未滿ナルトキハ其離縁ハ養親ト養子ニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ爲ス權利ヲ有スル者トノ協議ヲ以テ之ヲ爲ス

養親カ死亡シタル後養子カ離縁ヲ爲サント欲スルトキハ戸主ノ同意ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得

第八百六十一條 滿二十五年ニ達セサル者カ協議上ノ離縁ヲ爲スニハ第八百四十二條ノ規定ニ依リ其縁組ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百七十一條第二項、第三項及ヒ第七百七十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百六十二條 第七百七十三條及ヒ第七百七十四條ノ規定ハ協議上ノ離縁ニ之ヲ準用ス

戶籍吏ハ離縁カ前二條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

戶籍吏カ前項ノ規定ニ違反シテ届出ヲ受理シタルトキト雖モ離縁ハ之カ爲メニ其効力ヲ妨ケラルルコトナシ

第八百六十三條 縁組ノ當事者ノ一方ハ左ノ場合ニ限リ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

- 一 他ノ一方ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 二 他ノ一方ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ
- 三 養親ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 四 他ノ一方カ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 五 養子ニ家名ヲ漬シ又ハ家産ヲ傾シヘキ重大ナル過失アリタルトキ
- 六 養子カ逃亡シテ三年以上復歸セサルトキ

七 養子ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

八 他ノ一方カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ

九 婿養子縁組ノ場合ニ於テ離婚アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚若シハ婚姻ノ取消アリタルトキ

第八百六十四條 養子カ滿十五年ニ達セサル間ハ其縁組ニ付キ承諾權ヲ有スル者ヨリ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第八百四十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百六十五條 第八百六十三條第一號乃至第六號ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ一方又ハ其直系尊屬ノ行爲ヲ宥恕シタルトキハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百六十六條 第八百六十三條第四號ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ行爲ニ同意シタルトキハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百六十三條第四號ニ掲ケタル刑ニ處セラレタル者ハ他ノ一方ノ處刑ヲ理由トシテ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百六十七條 第八百六十三條第一號乃至第五號及ヒ第八號ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ之ヲ

提起スル權利ヲ有スル者カ離婚ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

第八百六十八條 第八百六十三條第六號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ養親カ養子ノ復歸シタルコトヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其復歸ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

第八百六十九條 第八百六十三條第七號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ養子ノ生死カ分明ト爲リタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百七十條 第八百六十三條第九號ノ場合ニ於テ離婚又ハ婚姻取消ノ請求アリタルトキハ之ニ附帶シテ離婚ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八百六十三條第九號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ當事者カ離婚又ハ婚姻ノ取消アリタルコトヲ知リタル後六個月ヲ經過シ又ハ離婚請求ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百七十一條 養子カ戸主ト爲リタル後ハ離婚ヲ爲スコトヲ得ス但養子カ隱居ヲ爲シタル後ハ此限ニ在ラス

第八百七十二條 養子ハ離婚ニ因リ其實家ニ於テ有セシ身分ヲ回復ス但第三者カ既に取得シ

タル權利ヲ害スルコトヲ得ス

第八百七十三條 夫婦カ養子ト爲リ又ハ養子カ養親ノ他ノ養子ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ妻カ離婚ニ因リテ養家ヲ去ルヘキトキハ夫ハ其選擇ニ從ヒ離婚又ハ離婚ヲ爲スコトヲ要ス

### 第五章 親權

#### 第一節 總則

第八百七十四條 子ハ其家ニ在ル父ノ親權ニ服ス但獨立ノ生計ヲ立ツル成年者ハ此限ニ在ラス

父カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ親權ヲ行フコト能ハサルトキハ家ニ在ル母之ヲ行フ

第八百七十五條 繼父、繼母又ハ嫡母カ親權ヲ行フ場合ニ於テハ次章ノ規定ヲ準用ス

#### 第二節 親權ノ効力

第八百七十六條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ監護及ヒ教育ヲ爲ス權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第八百七十七條 未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母カ指定シタル場所ニ其居所ヲ定ムルコトヲ要ス但第七百四十九條ノ適用ヲ妨ケス

第八百七十八條 未成年ノ子カ兵役ヲ出願スルコハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第八百七十九條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ必要ナル範圍内ニ於テ自ラ其子ヲ懲戒シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ懲戒場ニ入ルルコトヲ得

子ヲ懲戒場ニ入ルル期間ハ六ヶ月以下ノ範圍内ニ於テ裁判所之ヲ定ム但此期間ハ父又ハ母ノ請求ニ因リ何時ニテモ之ヲ短縮スルコトヲ得

第八百八十條 未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルコト非サレハ職業ヲ營ムコトヲ得ス

父又ハ母ハ第六條第二項ノ場合ニ於テハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第八百八十一條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ財産ヲ管理シ又其財産ニ關スル法律行爲ニ付キ其子ヲ代表ス但其子ノ行爲ヲ目的トスル義務ヲ生スヘキ場合ニ於テハ本人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八百八十二條 未成年ノ子カ其配偶者ノ財産ヲ管理スヘキ場合ニ於テハ親權ヲ行フ父又ハ母之ニ代ハリテ其財産ヲ管理ス

第八百八十三條 親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ代ハリテ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲シ又ハ子ノ之

ヲ爲スコトニ同意スルコハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一 營業ヲ爲スコト

二 借財又ハ保證ヲ爲スコト

三 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ノ喪失ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト

四 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト

五 相續ヲ拋棄スルコト

六 贈與又ハ遺贈ヲ拒絕スルコト

第八百八十四條 親權ヲ行フ父又ハ母カ其權限ヲ超エテ爲シ又ハ前條ノ規定ニ違反シテ同意ヲ與ヘタル行爲ハ父若クハ母又ハ子ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ハ第二百一十一條乃至第二百二十六條ノ適用ヲ妨ケス

第八百八十五條 親權ヲ行フ父又ハ母ト其未成年ノ子ト利益相反スル行爲ニ付テハ父又ハ母ハ其子ノ爲メニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス

父又ハ母カ數人ノ子ニ對シテ親權ヲ行フ場合ニ於テ其一人ト他ノ子トノ利益相反スル行爲ニ付テハ其一方ノ爲メ前項ノ規定ヲ準用ス

第八百八十六條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ以テ財産ノ管理ヲ爲スコトヲ要ス

第八百八十八條 子カ成年ニ達シタルトキハ親權ヲ行ヒタル父又ハ母ハ遲滞ナク其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス但其子ノ養育及ヒ財産ノ管理ノ費用ハ其子ノ財産ノ收益ト之ヲ相殺シタルモノト看做ス

第八百八十八條 前條但書ノ規定ハ無償ニテ子ニ財産ヲ與フル第三者カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ其財産ニ付テハ之ヲ適用セス

第八百八十九條 無償ニテ子ニ財産ヲ與フル第三者カ親權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之ヲ管理セシメサル意思ヲ表示シタルトキハ其財産ハ父又ハ母ノ管理ニ屬セサルモノトス

前項ノ場合ニ於テ第三者カ管理者ヲ指定セザリシトキハ裁判所ハ子、其親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理者ヲ選任ス

第三者カ管理者ヲ指定セシトキト雖モ其管理者ノ權限カ消滅シ又ハ之ヲ改任スル必要アル場合ニ於テ第三者カ更ニ管理者ヲ指定セザルトキ亦同シ

第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百九十條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ父又ハ母カ子ノ財産ヲ管理スル

場合及ヒ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百九十一條 親權ヲ行ヒタル父若クハ母又ハ親族會員ト其子トノ間ニ財産ノ管理ニ付テ生シタル債權ハ其管理權消滅ノ時ヨリ五年間之ヲ行ハザルトキハ時効ニ因リテ消滅ス  
子カ未ダ成年ニ達セザル間ニ管理權カ消滅シタルトキハ前項ノ期間ハ其子カ成年ニ達シ又ハ後任ノ法定代理人カ就職シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百九十二條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ其未成年ノ子ニ代ハリテ戶主權及ヒ親權ヲ行フ

第三節 親權ノ喪失

第八百九十三條 父又ハ母カ親權ヲ濫用シ又ハ若シク不行跡ナルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其親權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

第八百九十四條 親權ヲ行フ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リ其子ノ財産ヲ危クシタルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得  
父カ前項ノ宣告ヲ受ケタルトキハ管理權ハ家ニ在ル母之ヲ行フ

第八百九十五條 前二條ニ定メタル原因カ止ミタルトキハ裁判所ハ本人又ハ其親族ノ請求ニ因リ失權ノ宣告ヲ取消スコトヲ得

第八百九十六條 親權ヲ行フ母ハ財産ノ管理ヲ辭スルコトヲ得

### 第六章 後見

#### 第一節 後見ノ開始

第八百九十七條 後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス

- 一 未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルトキ
- 二 成年者カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

#### 第二節 後見ノ機關

##### 第一款 後見人

第八百九十八條 未成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ行フ者ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得但管理權ヲ有セサル者ハ此限ニ在ラス

親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ財産ノ管理ヲ辭シタルトキハ前項ノ規定ニ依リ後見人ノ指定ヲ爲スコトヲ得

第八百九十九條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ禁治産者ノ後見人ト爲ル

妻カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ夫其後見人ト爲ル夫カ後見人ヲラサルトキハ前項ノ規定ニ依ル

夫カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ妻其後見人ト爲ル妻カ後見人ヲラサルトキ又ハ夫カ未

成年者ナルトキハ第一項ノ規定ニ依ル

第九百條 前二條ノ規定ニ依リテ家族ノ後見人タル者アラサルトキハ戶主其後見人ト爲ル

第九百一條 前三條ノ規定ニ依リテ後見人タル者アラサルトキハ後見人ハ親族會之ヲ選任ス

第九百二條 母カ財産ノ管理ヲ辭シ、後見人カ其職務ヲ辭シ、親權ヲ行ヒタル父若クハ母カ家ヲ去リ又ハ戶主カ隱居ヲ爲シタルニ因リ後見人ヲ選任スル必要ヲ生シタルトキハ其父、母又ハ後見人ハ遲滯ナク親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

第九百三條 後見人ハ一人タルコトヲ要ス

第九百四條 後見人ハ婦女ヲ除ク外左ノ事由アルニ非サレハ其任務ヲ辭スルコトヲ得ス

- 一 軍人又ハ軍屬トシテ現役ニ服スルコト
- 二 被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ從事スルコト
- 三 自己ヨリ先ニ後見人タルヘキ者ニ付キ本條又ハ次條ニ掲ケタル事由ノ存セシ場合ニ於テ其事由カ消滅シタルコト

四 禁治産者ニ付テハ十年以上後見ヲ爲シタルコト但配偶者、直系血族及ヒ戶主ハ此限ニ在ラス

#### 五 此他正當ノ事由

民法 親族 後見 後見ノ開始 後見ノ機關

第九百五條 左ニ掲ケタル者ハ後見人タルコトヲ得ス

- 一 未成年者
- 二 禁治産者及ヒ準禁治産者
- 三 剝奪公權者及ヒ停止公權者
- 四 裁判所ニ於テ免職セラレタル法定代理人又ハ保佐人
- 五 破産者
- 六 被後見人ニ對シ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者及ヒ其配偶者並ニ直系血族
- 七 行方ノ知レサル者
- 八 裁判所ニ於テ後見ノ任務ニ堪ヘサル事跡、不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡アリト認めタル者

第九百六條 前七條ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用ス

保佐人又ハ其代表スル者ト準禁治産者トノ利益相反スル行爲ニ付テハ保佐人ハ臨時保佐人ノ選任ヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス

第二款 後見監督人

第九百七條 後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ後見監督人ヲ指定スルコトヲ得

第九百八條 前條ノ規定ニ依リテ指定シタル後見監督人ナキトキハ法定後見人又ハ指定後見人ハ其事務ニ著手スル前親族會ノ招集ヲ請求シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免職スルコトヲ得

親族會ニ於テ後見人ヲ選任シタルトキハ直ニ後見監督人ヲ選任スルコトヲ要ス

第九百九條 後見人就職ノ後後見監督人ノ缺ケタルトキハ後見人ハ遲滯ナク親族會ヲ招集シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

第九百十條 後見人ノ更迭アリタルトキハ親族會ハ後見監督人ヲ改選スルコトヲ要ス但前後見監督人ヲ重選スルコトヲ妨ケス

新後見人カ親族會ニ於テ選任シタル者ニ非サルトキハ後見監督人ハ遲滯ナク親族會ヲ招集シ前項ノ規定ニ依リテ改選ヲ爲サシムルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ後見人ノ行爲ニ付キ之ト連帶シテ其責ニ任ス

第九百十一條 後見人ノ配偶者、直系血族又ハ兄弟姉妹ハ後見監督人タルコトヲ得ス

第九百十二條 後見監督人ノ職務左ノ如シ

- 一 後見人ノ事務ヲ監督スルコト
- 二 後見人ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滯ナク其後任者ノ任務ニ就クコトヲ促シ若シ後任者

民法 親族 後見 後見ノ機關

ナキトキハ親族會ヲ招集シ其選任ヲ爲サシムルコト

三 急迫・事情アル場合ニ於テ必要ナル處分ヲ爲スコト

四 後見人又ハ其代表スル者ト被後見人トノ利益相反スル行爲ニ付キ被後見人ヲ代表スルコト

第九百十三條 第六百四十四條、第九百四條及ヒ第九百五條ノ規定ハ後見監督人ニ之ヲ準用ス

第三節 後見ノ事務

第九百十四條 後見人ハ遲滯ナク被後見人ノ財産ノ調査ニ著手シ一个月内ニ其調査ヲ終ハリ

且其目錄ヲ調製スルコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

財産ノ調査及ヒ其目錄ノ調製ハ後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スニ非サレハ其效ナシ

後見人カ前二項ノ規定ニ從ヒ財産ノ目錄ヲ調製セザルトキハ親族會ハ之ヲ免黜スルコトヲ得

第九百十五條 後見人ハ目錄ノ調製ヲ終ハルマテハ急迫ノ必要アル行爲ノミヲ爲ス權限ヲ有

ス但之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第九百十六條 後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負フトキハ財産ノ調査ニ著手

スル前ニ之ヲ後見監督人ニ申出ツルコトヲ要ス

後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有スルコトヲ知リテ之ヲ申出テザルトキハ其債權ヲ失フ

後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ負フコトヲ知リテ之ヲ申出テザルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ得

第九百十七條 前三條ノ規定ハ後見人就職ノ後被後見人カ包括財産ヲ取得シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九百十八條 未成年者ノ後見人ハ第八百七十六條乃至第八百八十條及ヒ第八百八十二條ニ定メタル事項ニ付キ親權ヲ行フ父又ハ母ト同一ノ權利義務ヲ有ス但親權ヲ行フ父又ハ母カ定メタル教育ノ方法及ヒ居所ヲ變更シ、未成年者ヲ懲戒場ニ入レ、營業ヲ許可シ、其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第九百十九條 禁治產者ノ後見人ハ禁治產者ノ資力ニ應シテ其療養看護ヲ力ムルコトヲ要ス

禁治產者ヲ瘋癲病院ニ入レ又ハ私宅ニ監置スルト否トハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人之ヲ定

第九百二十條 後見人ハ被後見人ノ財産ヲ管理シ又其財産ニ關スル法律行爲ニ付キ被後見人

ヲ代表ス

第八百八十一條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

民法 親族 後見 後見ノ事務



第九百二十一條 後見人ハ其就職ノ初ニ於テ親族會ノ同意ヲ得テ被後見人ノ生活、教育又ハ療養看護及ヒ財産ノ管理ノ爲メ毎年費スヘキ金額ヲ豫定スルコトヲ要ス

前項ノ豫定額ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但已ムコトヲ得サル場合ニ於テ豫定額ヲ超ユル金額ヲ支出スルコトヲ妨ケス

第九百二十二條 親族會ハ後見人及ヒ被後見人ノ資力其他ノ事情ニ依リ被後見人ノ財産中ヨリ相當ノ報酬ヲ後見人ニ與フルコトヲ得但後見人カ被後見人ノ配偶者、直系血族又ハ戶主ナルトキハ此限ニ在ラス

第九百二十三條 後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ有給ノ財産管理者ヲ使用スルコトヲ得但第六條ノ適用ヲ妨ケス

第九百二十四條 親族會ハ後見人就職ノ初ニ於テ後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金銭カ何程ノ額ニ達セハ之ヲ寄託スヘキカヲ定ムルコトヲ要ス

後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金銭カ親族會ノ定メタル額ニ達スルモ相當ノ期間内ニ之ヲ寄託セサルトキハ其法定利息ヲ拂フコトヲ要ス

金銭ヲ寄託スヘキ場所ハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人之ヲ定ム

第九百二十五條 指定後見人及ヒ選定後見人ハ每年少クトモ一回被後見人ノ財産ノ狀況ヲ親

族會ニ報告スルコトヲ要ス

第九百二十六條 後見人カ被後見人ニ代ハリテ營業若シハ第十二條第一項ニ掲ケタル行爲ヲ爲シ又ハ未成年者ノ之ヲ爲スコトニ同意スルニハ親族會ノ認許ヲ得ルコトヲ要ス但元本ヲ領收スルハ此限ニ在ラス

第九百二十七條 後見人カ被後見人ノ財産及ヒ被後見人ニ對スル第三者ノ權利ヲ讓受ケタルトキハ被後見人ハ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ハ第二百一十一條乃至第二百二十六條ノ適用ヲ妨ケス  
第九百二十八條 後見人ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ被後見人ノ財産ヲ賃借スルコトヲ得ス

第九百二十九條 後見人カ其任務ヲ曠シスルトキハ親族會ハ臨時管理人ヲ選任シ後見人ノ責任ヲ以テ被後見人ノ財産ヲ管理セシムルコトヲ得

第九百三十條 親族會ハ後見人ヲシテ被後見人ノ財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第九百三十一條 被後見人カ戶主ナルトキハ後見人ハ之ニ代ハリテ其權利ヲ行フ但家族ヲ離籍シ、其復籍ヲ拒ミ又ハ家族カ分家ヲ爲シ若シハ廢絶家ヲ再興スルコトニ同意ズルニハ親

民法 親族 後見 後見ノ事務 後見ノ終了

族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

後見人ハ未成年者ニ代ハリテ親權ヲ行フ但第九百十四條乃至第九百十八條及ヒ前十條ノ規定ヲ準用ス

第九百三十二條 親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサル場合ニ於テハ後見人ハ財産ニ關スル權限ノミヲ有ス

第九百三十三條 第六百四十四條、第八百八十四條及ヒ第八百八十九條ノ規定ハ後見ニ之ヲ準用ス

第四節 後見ノ終了

第九百三十四條 後見人ノ任務カ終了シタルトキハ後見人又ハ其相續人ハ二个月内ニ其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

第九百三十五條 後見ノ計算ハ後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲ス  
後見人ノ更迭アリタル場合ニ於テハ後見ノ計算ハ親族會ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第九百三十六條 未成年者カ成年ニ達シタル後後見ノ計算ノ終了前ニ其者ト後見人又ハ其相續人トノ間ニ爲シタル契約ハ其者ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得其者カ後見人又ハ相續人ニ對シテ爲シタル單獨行爲亦同

第十九條及ヒ第二百一十一條乃至第二百二十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九百三十七條 後見人カ被後見人ニ返還スヘキ金額及ヒ被後見人カ後見人ニ返還スヘキ金額ニハ後見ノ計算終了ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要ス

後見人カ自己ノ爲メニ被後見人ノ金錢ヲ消費シタルトキハ其消費ノ時ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第九百三十八條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ後見ニ之ヲ準用ス  
第九百三十九條 第八百九十一條ニ定メタル時効ハ後見人、後見監督人又ハ親族會員ト被後

見人トノ間ニ於テ後見ニ關シテ生シタル債權ニ之ヲ準用ス  
前項ノ時効ハ第九百三十六條ノ規定ニ依リテ法律行爲ヲ取消シタル場合ニ於テハ其取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第七章 親族會

第九百四十條 本法其他ノ法令ノ規定ニ依リ親族會ヲ開クヘキ場合ニ於テハ會議ヲ要スル事件ノ本人、戶主、親族、後見人、後見監督人、保佐人、檢事又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ招集ス

第九百四十一條 親族會員ハ三人以上トシ親族其他本人又ハ其家ニ縁故アル者ノ中ヨリ裁判

所之ヲ選定ス

後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ親族會員ヲ選定スルコトヲ得

第九百四十二條 遠隔ノ地ニ居住スル者ハ親族會員タルコトヲ辭スルコトヲ得

後見人、後見監督人及ヒ保佐人ハ親族會員タルコトヲ得ス

第九百四十三條 親族會ノ議事ハ會員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第九百四十四條 本人、戶主、其家ニ在ル父母、配偶者、本家並ニ分家ノ戶主、後見人、後見監督人及ヒ保佐人ハ親族會ニ於テ其意見ヲ述フルコトヲ得

第九百四十五條 無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ其者ノ無能力ノ止ムマテ繼續ス此親族會ハ最初ノ招集ノ場合ヲ除ク外本人、其法定代理人、後見監督人、保佐人又ハ會員之ヲ招集ス

第九百四十六條 親族會ニ缺員ヲ生シタルトキハ會員ハ補缺員ノ選定ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ス

親族會ノ招集ハ前項ニ掲ケタル者ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第九百四十七條 親族會ノ決議ニ對シテハ一个月内ニ會員其他第九百四十條ニ掲ケタル者ヨリ其不服ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ得

第九百四十八條 親族會カ決議ヲ爲スコト能ハサルトキハ會員ハ其決議ニ代ハルヘキ裁判ヲ爲スコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第九百四十九條 第六百四十四條ノ規定ハ親族會員ニ之ヲ準用ス

無能力者ノ法定代理人ハ親族會ノ同意ヲ得テ爲シタル法律行為ニ付テモ其責ヲ免ルルコトヲ得ス但法定代理人ニ過失ナカリシトキハ此限ニ在ラス

第八章 扶養ノ義務

第九百五十條 直系ノ血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ扶養ヲ爲ス義務ヲ負フ

夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ直系尊屬ニシテ其家ニ在ル者トノ間亦同シ

第九百五十一條 扶養ノ義務ヲ負フ者數人アル場合ニ於テハ其義務ヲ履行スヘキ者ノ順序左ノ如シ

第一 配偶者

第二 直系尊屬

第三 直系尊屬

第四 戸主

第五 前條第二項ニ掲ケタル者

第六 兄弟姉妹

直系ノ卑屬又ハ尊屬ノ間ニ於テハ其親等ノ最モ近キ者ヲ先ニス前條第二項ニ掲ケタル直系尊屬間亦同シ

第九百五十二條 同順位ノ扶養義務者數人アルトキハ各其資力ニ應ジテ其義務ヲ分擔ス但家

ニ在ル者ト家ニ在ラサル者トノ間ニ於テハ家ニ在ル者先ツ扶養ヲ爲スコトヲ要ス

第九百五十三條 扶養ヲ受クル權利ヲ有スル者數人アル場合ニ於テ扶養義務者ノ資力カ其全

員ヲ扶養スルニ足ラサルトキハ扶養義務者ハ左ノ順序ニ從ヒ扶養ヲ爲スコトヲ要ス

第一 直系尊屬

第二 直系卑屬

第三 配偶者

第四 第九百五十條第二項ニ掲ケタル者

第五 兄弟姉妹

第六 前五號ニ掲ケタル者ニ非サル家族

第九百五十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九百五十四條 同順位ノ扶養權利者數人アルトキハ其需要ニ應ジテ扶養ヲ受クルコトヲ得

第九百五十二條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九百五十五條 扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クヘキ者カ自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテ生活ヲ爲ス

コト能ハサルトキニ存在ス自己ノ資産ニ依リテ教育ヲ受クルコト能ハサルトキ亦同シ

兄弟姉妹間ニ在リテハ扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クル必要カ之ヲ受クヘキ者ノ過失ニ因ラズシ

テ生シタルトキニ存在ス

第九百五十六條 扶養ノ程度ハ扶養權利者ノ需要ト扶養義務者ノ身分及ヒ資力トニ依リテ之ヲ定ム

第九百五十七條 扶養義務者ハ其選擇ニ從ヒ扶養權利者ヲ引取リテ之ヲ養ヒ又ハ之ヲ引取ラ

ズシテ生活ノ資料ヲ給付スルコトヲ要ス但正當ノ事由アルトキハ裁判所ハ扶養權利者ノ請

求ニ因リ扶養ノ方法ヲ定ムルコトヲ得

第九百五十八條 扶養ノ程度又ハ方法カ判決ニ因リテ定マリタル場合ニ於テ其判決ノ根據ト

爲リタル事情ニ變更ヲ生シタルトキハ當事者ハ其判決ノ變更又ハ取消ヲ請求スルコトヲ

得

第九百五十九條 扶養ヲ受クル權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

五十

## 第五編 相續

### 第一章 家督相續

#### 第一節 總則

第九百六十條 家督相續ハ左ノ事由ニ因リテ開始ス

一 戸主ノ死亡、隱居又ハ國籍喪失

二 女戸主ハ入夫婚姻、其取消又ハ入夫ノ離婚

第九百六十一條 家督相續ハ被相續人ノ住所ニ於テ開始ス

第九百六十二條 家督相續回復ノ請求權ハ家督相續人又ハ其法定代理人カ相續權侵害ノ事實

ヲ知リタル時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス相續開始ノ時ヨリ二十年

ヲ經過シタルトキ亦同シ

第九百六十三條 相續財産ニ關スル費用ハ其財産中ヨリ之ヲ支辨ス但相續人ノ過失ニ因ルモ

ノハ此限ニ在ラス

前項ニ掲ケタル費用ハ遺留分權利者カ贈與ノ減殺ニ因リテ得タル財産ヲ以テ之ヲ支辨スル

コトヲ要セス

#### 第二節 家督相續人

民法 相續 家督相續 總則 家督相續人

五十一

第九百六十四條 胎兒ハ家督相續ニ付テハ既ニ生マレタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ胎兒カ死體ニテ生マレタルトキハ之ヲ適用セス

第九百六十五條 左ニ掲ケタル者ハ家督相續人タルコトヲ得ス

一 故意ニ被相續人又ハ家督相續ニ付キ先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル爲メ刑ニ處セラレタル者

二 被相續人ノ殺害セラレタルコトヲ知リテ之ヲ告發又ハ告訴セザリシ者但共者ニ是非ノ辨別ナキトキ又ハ殺害者カ自己ノ配偶者若クハ直系血族ナリシトキハ此限ニ在ラス

三 詐欺又ハ強迫ニ因リ被相續人カ相續ニ關スル遺言ヲ爲シ、之ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ妨ケタル者

四 詐欺又ハ強迫ニ因リ被相續人ヲシテ相續ニ關スル遺言ヲ爲サシメ、之ヲ取消サシメ又ハ之ヲ變更セシメタル者

五 相續ニ關スル被相續人ノ遺言書ヲ偽造、變造、毀滅又ハ藏匿シタル者

第九百六十六條 被相續人ノ家族タル直系卑屬ハ左ノ規定ニ從ヒ家督相續人ト爲ル

一 親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其近キ者ヲ先ニス

二 親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス

三 親等ノ同シキ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニス

四 親等ノ同シキ嫡出子、庶子及ヒ私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及ヒ庶子ハ女ト雖モ之ヲ私生子ヨリ先ニス

五 前四號ニ掲ケタル事項ニ付キ相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第八百三十四條ノ規定ニ依リ又ハ養子縁組ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得シタル者ハ家督相續ニ付テハ其嫡出子タル身分ヲ取得シタル時ニ生マレタルモノト看做ス

第九百六十七條 前條ノ規定ハ第七百三十六條ノ適用ヲ妨ケス

第九百六十八條 第七百三十七條及ヒ第七百三十八條ノ規定ニ依リテ家族ト爲リタル直系卑屬ハ嫡出子又ハ庶子タル他ノ直系卑屬ナキ場合ニ限リ第九百六十六條ニ定メタル順序ニ從ヒテ家督相續人ト爲ル

第九百六十九條 法定ノ推定家督相續人ハ其姉妹ノ爲メニスル養子縁組ニ因リテ其相續權ヲ害セララルコトナシ

第九百七十條 第九百六十六條及ヒ第九百六十八條ノ規定ニ依リテ家督相續人タルヘキ者カ家督相續ノ開始前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アルトキハ其直系卑屬ハ第九百六十六條及ヒ第九百六十八條ニ定メタル順序ニ從ヒ其者ト同順位ニ於

民法 相續 家督相續 家督相續人

テ家督相續人ト爲ル

第九百七十一條 法定ノ推定家督相續人ニ付キ左ノ事由アルトキハ被相續人ハ其推定家督相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

- 一 被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルコト
- 二 疾病其他身體又ハ精神ノ狀況ニ因リテ家政ヲ執ルニ堪ヘサルヘキコト
- 三 家名ニ汚辱ヲ及ホスヘキ罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルコト
- 四 浪費者トシテ準禁治産ノ宣告ヲ受ケ改悛ノ望ナキコト

此他正當ノ事由アルトキハ被相續人ハ親族會ノ同意ヲ得テ其廢除ヲ請求スルコトヲ得

第九百七十二條 被相續人カ遺言ヲ以テ推定家督相續人ヲ廢除スル意思ヲ表示シタルトキハ遺言執行者ハ其遺言カ效力ヲ生シタル後遲滯ナク裁判所ニ廢除ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テ廢除ハ被相續人ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第九百七十三條 推定家督相續人廢除ノ原因止ミタルトキハ被相續人又ハ推定家督相續人ハ廢除ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但相續開始ノ後ハ此限ニ在ラス

第九百七十一條第一項第一號ノ場合ニ於テハ被相續人ハ何時ニテモ廢除ノ取消ヲ請求スルコトヲ得

前條ノ規定ハ廢除ノ取消ニ之ヲ準用ス

第九百七十四條 推定家督相續人ノ廢除又ハ其取消ノ請求アリタル後其裁判確定前ニ相續カ開始シタルトキハ裁判所ハ親族、利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ戶主權ノ行使及ヒ遺產ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得廢除ノ遺言アリタルトキ亦同シ

裁判所カ管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ第二十七條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第九百七十五條 法定ノ推定家督相續人ナキトキハ被相續人ハ家督相續人ヲ指定スルコトヲ得此指定ハ法定ノ推定家督相續人アルニ至リタルトキハ其效力ヲ失フ

家督相續人ノ指定ハ之ヲ取消スコトヲ得

前二項ノ規定ハ死亡又ハ隱居ニ因ル家督相續ノ場合ニ之ヲ適用ス

第九百七十六條 家督相續人ノ指定及ヒ其取消ハ之ヲ戶籍吏ニ届出ツルニ因リテ其效力ヲ生ス

第九百七十七條 被相續人カ遺言ヲ以テ家督相續人ノ指定又ハ其取消ヲ爲ス意思ヲ表示シタルトキハ遺言執行者ハ其遺言カ效力ヲ生シタル後遲滯ナク之ヲ戶籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス此場合ニ於テ指定又ハ其取消ハ被相續人ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第九百七十八條 法定又ハ指定ノ家督相續人ナキ場合ニ於テ其家ニ被相續人ノ父アルトキハ父、父アラサルトキ又ハ父カ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ母、父母共ニアラサルト

キ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ親族會ハ左ノ順序ニ從ヒ家族中ヨリ家督相續人ヲ選定ス

第一 配偶者但家女ナルトキ

第二 兄弟

第三 姉妹

第四 第二號ニ該當セサル配偶者

第五 兄弟姉妹ノ直系卑屬

第九百七十九條 家督相續人ヲ選定スヘキ者ハ正當ノ事由アル場合ニ限り裁判所ノ許可ヲ得テ前條ニ掲ケタル順序ヲ變更シ又ハ選定ヲ爲ササルコトヲ得

第九百八十條 第九百七十八條ノ規定ニ依リテ家督相續人タル者ナキトキハ家ニ在ル直系尊屬中親等ノ最モ近キ者家督相續人ト爲ル但親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先コス

第九百八十一條 前條ノ規定ニ依リテ家督相續人タル者ナキトキハ親族會ハ被相續人ノ親族、分家ノ戸主又ハ本家若クハ分家ノ家族中ヨリ家督相續人ヲ選定ス

前項ニ掲ケタル者ノ中ニ家督相續人タルヘキ者ナキトキハ親族會ハ他人ノ中ヨリ之ヲ選定ス

親族會ハ正當ノ事由アル場合ニ限り前二項ノ規定ニ拘ハラヌ裁判所ノ許可ヲ得テ他人ヲ選定スルコトヲ得

第三節 家督相續ノ效力

第九百八十二條 家督相續人ハ相續開始ノ時ヨリ前戸主ノ有セシ權利義務ヲ承繼ス但前戸主ノ一身ニ專屬セルモノハ此限ニ在ラス

第九百八十三條 系譜、祭具及ヒ墳墓ノ所有權ハ家督相續ノ特權ニ屬ス

第九百八十四條 隱居者及ヒ入夫婚姻ヲ爲ス女戸主ハ公正證書其他確定日附アル證書ニ依リ其財産ヲ留保スルコトヲ得但家督相續人ノ遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス

第九百八十五條 隱居又ハ入夫婚姻ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ前戸主ノ債權者ハ其前戸主ニ對シテ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得

入夫婚姻ノ取消又ハ入夫ノ離婚ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ入夫カ戸主タリシ間ニ負擔シタル債務ノ辨濟ハ其入夫ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ家督相續人ニ對スル請求ヲ妨ケス

第九百八十六條 國籍喪失者ノ家督相續人ハ戸主權及ヒ家督相續ノ特權ニ屬スル權利ノミヲ承繼ス但遺留分及ヒ前戸主カ特ニ指定シタル相續財産ヲ承繼スルコトヲ妨ケス



國籍喪失者カ日本人ニ非サレハ享有スルコトヲ得サル權利ヲ有スル場合ニ於テ一年内ニ之ヲ日本人ニ讓渡ササルトキハ其權利ハ家督相續人ニ歸屬ス

第九百八十七條 國籍喪失ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ前戶主ノ債權者ハ家督相續人ニ對シテハ其受ケタル財産ノ限度ニ於テノミ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得

### 第二章 遺產相續

#### 第一節 總則

第九百八十八條 遺產相續ハ家族ノ死亡ニ因リテ開始ス

第九百八十九條 第九百六十一條乃至第九百六十四條ノ規定ハ遺產相續ニ之ヲ準用ス

#### 第二節 遺產相續人

第九百九十條 被相續人ノ直系卑屬ハ左ノ規定ニ從ヒ遺產相續人ト爲ル

一 親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其近キ者ヲ先ニス

二 親等ノ同シキ者ハ同順位ニ於テ遺產相續人ト爲ル

第九百九十一條 前條ノ規定ニ依リテ相續人タルヘキ者ノ一人又ハ數人カ相續ノ開始前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アルトキハ其直系卑屬ハ前條ノ規定ニ從ヒ其者ト同順位ニ於テ遺產相續人ト爲ル

第九百九十二條 前二條ノ規定ニ依リテ相續人タルヘキ者ナキ場合ニ於テ遺產相續ヲ爲スヘキ者ノ順位左ノ如シ

第一 配偶者

第二 直系尊屬

第三 戶主

前項第二號ノ場合ニ於テハ第九百九十二條ノ規定ヲ準用ス

第九百九十三條 左ニ掲ケタル者ハ遺產相續人タルコトヲ得ス

一 故意ニ被相續人又ハ遺產相續ニ付キ先順位若クハ同順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル爲メ刑ニ處セラレタル者

二 第九百六十五條第二號乃至第五號ニ掲ケタル者

第九百九十四條 遺留分ヲ有スル推定遺產相續人カ被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキハ被相續人ハ其推定遺產相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第九百九十五條 被相續人ハ何時ニテモ推定遺產相續人廢除ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第九百九十六條 第九百七十二條及ヒ第九百七十四條ノ規定ハ推定遺産相續人ノ廢除及ヒ其取消ニ之ヲ準用ス

第三節 遺産相續ノ效力

第一款 總則

第九百九十七條 遺産相續人ハ相續開始ノ時ヨリ被相續人ノ財産ニ屬セシ一切ノ權利義務ヲ承繼ス但被相續人ノ一身ニ專屬セシモノハ此限ニ在ラス

第九百九十八條 遺産相續人數人アルトキハ相續財産ハ其共有ニ屬ス

第九百九十九條 各共同相續人ハ其相續分ニ應シテ被相續人ノ權利義務ヲ承繼ス

第二款 相續分

第一千條 同順位ノ相續人數人アルトキハ其各自ノ相續分ハ相均シキモノトス但直系卑屬數人アルトキハ庶子及ヒ私生子ノ相續分ハ嫡出子ノ相續分ノ二分ノ一トス

第一千一條 第九百九十一條ノ規定ニ依リテ相續人タル直系卑屬ノ相續分ハ其直系尊屬カ受クヘカリシモノニ同シ但直系卑屬數人アルトキハ其相續分ハ前條ノ規定ニ從ヒ各自ノ直系尊屬カ受クヘカリシ部分ニ付キ之ヲ定ム

第一千二條 被相續人ハ前二條ノ規定ニ拘ハラス遺言ヲ以テ共同相續人ノ相續分ヲ定メ又ハ之

ヲ定ムルコトヲ第三者ニ委託スルコトヲ得但被相續人又ハ第三者ハ遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス

被相續人カ共同相續人中ノ一人若クハ數人ノ相續分ノミヲ定メ又ハ之ヲ定メシメタルトキハ他ノ共同相續人ノ相續分ハ前二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第一千三條 共同相續人中被相續人ヨリ遺贈ヲ受ケ又ハ婚姻、養子縁組、分家、廢絶家再興ノ爲メ若クハ生計ノ資本トシテ贈與ヲ受ケタル者アルトキハ被相續人カ相續開始ノ時ニ於テ有セシ財産ノ價額ニ其遺贈又ハ贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヲ相續財産ト看做シ前二條ノ規定ニ依リテ算定シタル相續分ノ中ヨリ其遺贈又ハ贈與ノ價額ヲ控除シ其殘額ヲ以テ其者ノ相續分トス

遺贈又ハ贈與ノ價額カ相續分ノ價額ニ超ユルトキハ受遺者又ハ受贈者ハ其相續分ヲ受クルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ被相續人カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ之ヲ適用セス

第一千四條 前條ニ掲ケタル贈與ノ價額ハ其目的タル財産カ受贈者ノ行爲ニ因リ減失シ又ハ其價格ノ増減アリタルトキト雖モ相續開始ノ當時仍ホ原狀ニテ存スルモノト看做シテ之ヲ定ム

第一千五條 共同相續人ノ一人カ分割前ニ其相續分ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ他ノ共同相續

民法 相續 遺産相續 遺産相續ノ效力

人ハ其價額及ヒ費用ヲ償還シテ其相續分ヲ讓受クルコトヲ得  
前項ニ定メタル權利ハ一个月内ニ之ヲ行使スルコトヲ要ス

第三款 遺産ノ分割

第一千六條 被相續人ハ遺言ヲ以テ分割ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ定ムルコトヲ第三者ニ委託スル  
コトヲ得

第一千七條 被相續人ハ遺言ヲ以テ相續開始ノ時ヨリ五年ヲ超エサル期間内分割ヲ禁スルコト  
ヲ得

第一千八條 遺産ノ分割ハ相續開始ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第一千九條 各共同相續人ハ相續開始前ヨリ存スル事由ニ付キ他ノ共同相續人ニ對シ賣主ト同  
シク其相續分ニ應シテ擔保ノ責ニ任ス

第一千十條 各共同相續人ハ其相續分ニ應シ他ノ共同相續人カ分割ニ因リテ受ケタル債權ニ付  
キ分割ノ當時ニ於ケル債務者ノ資力ヲ擔保ス

第一千十一條 擔保ノ責ニ任スル共同相續人中償還ヲ爲ス資力ナキ者アルトキハ其償還スルコ  
ト能ハサル部分ハ求償者及ヒ他ノ資力アル者各其相續分ニ應シテ之ヲ分擔ス但求償者ニ過

失アルトキハ他ノ共同相續人ニ對シテ分擔ヲ請求スルコトヲ得ス

第一千十二條 前三條ノ規定ハ被相續人カ遺言ヲ以テ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ之ヲ適用  
セス

第三章 相續ノ承認及ヒ拋棄

第一節 總則

第一千十三條 相續人ハ相續權ノ發生ヲ知リタル時ヨリ三个月内ニ單純若クハ限定ノ承認又ハ

拋棄ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所ニ於テ之ヲ伸長  
スルコトヲ得

相續人ハ承認又ハ拋棄ヲ爲ス前ニ於テ相續財產ノ調査ヲ爲スコトヲ得

第一千十四條 相續人カ承認又ハ拋棄ヲ爲ス前ニ死亡シタルトキハ前條第一項ノ期間ハ其者ノ  
相續人カ自己ノ相續權ノ發生ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

第一千十五條 相續人カ無能力者ナルトキハ第一千十三條第一項ノ期間ハ其法定代理人カ相續權  
ノ發生ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

第一千十六條 法定家督相續人ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ス但第九百八十條ニ掲ケタル者ハ此限  
在ラス

第一千十七條 相續人ハ承認又ハ拋棄ヲ爲スマテハ其固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ヲ管理スルコトヲ要ス

裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ何時コトモ相續財産ノ保存ニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

裁判所カ管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ第二十七條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第一千十八條 承認及ヒ拋棄ハ第一千十三條第一項ノ期間内ト雖モ之ヲ取消スコトヲ得ス  
前項ノ規定ハ第一編及ヒ前編ノ規定ニ依リテ承認又ハ拋棄ノ取消ヲ爲スコトヲ妨ケス但其取消權ハ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ六個月間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス承認又ハ拋棄ノ時ヨリ十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第二節 承認

第一款 單純承認

第一千十九條 相續人カ單純ニ承認ヲ爲シタルトキハ無限ニ被相續人ノ權利義務ヲ承繼ス

第一千二十條 左ニ掲ケタル場合ニ於テハ相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモノト看做ス

- 一 相續人カ相續財産ノ全部又ハ一部ヲ處分シタルトキ但保存行爲及ヒ第六百二條ニ定メタル期間ヲ超エサル貸貸ヲ爲スハ此限ニ在ラス

二 相續人カ第一千十三條第一項ノ期間内ニ限定承認又ハ拋棄ヲ爲サザリントキ

三 相續人カ限定承認又ハ拋棄ヲ爲シタル後ト雖モ相續財産ノ全部若シハ一部ヲ隱匿シ、私ニ之ヲ消費シ又ハ惡意ヲ以テ之ヲ財産目録中ニ記載セザリントキ但相續人カ拋棄ヲ爲シタルニ因リテ相續權ヲ得タル者ガ承認ヲ爲シタル後ハ此限ニ在ラス

第二款 限定承認

第一千二十一條 相續人ハ相續開始ノ時ニ於テ被相續人カ有セシ財産ノ限度ニ於テノミ被相續人ノ債務及ヒ遺贈ヲ辨濟スヘキ責任ヲ以テ承認ヲ爲スコトヲ得

第一千二十二條 相續人カ限定承認ヲ爲サント欲スルトキハ第一千十三條第一項ノ期間内ニ財産目録ヲ調製シテ之ヲ相續開始地ノ裁判所ニ提出シ限定承認ヲ爲ス旨ヲ申述スルコトヲ要ス  
第一千二十三條 相續人カ限定承認ヲ爲シタルトキハ其被相續人ニ對シテ有セシ權利義務ハ消滅セザリシモノト看做ス

第一千二十四條 限定承認者ハ其固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ノ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス

第一千十七條第二項及ヒ第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百四十五條、第六百四十六條及ヒ第六百五十條第一項、第二項ノ規定ハ限定承認者ト相

續債權者及ヒ受遺者ト、間ニ之ヲ準用ス

第一千二十五條 限定承認者ハ限定承認ヲ爲シタル後五日內ニ一切ノ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シ限定承認ヲ爲シタルコト及ヒ一定ノ期間內ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ相續開始地ニ於テ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

第七十九條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一千二十六條 限定承認者ハ前條第一項ノ期間滿了前ニハ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シテ辨濟ヲ拒ムコトヲ得

第一千二十七條 第一千二十五條第一項ノ期間滿了ノ後ハ限定承認者ハ相續財產ヲ以テ其期間內ニ申出テタル債權者其他知レタル債權者ニ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス但優先權ヲ有スル債權者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第一千二十八條 限定承認者ハ辨濟期ノ未タ至ラサル債權ト雖モ前條ノ規定ニ依リテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ハ裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

第一千二十九條 限定承認者ハ前二條ノ規定ニ依リテ各債權者ニ辨濟ヲ爲シタル後ニ非サレハ

受遺者ニ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第一千三十條 前三條ノ規定ニ從ヒテ辨濟ヲ爲スコト付キ相續財產ノ賣却ヲ必要トスルトキハ限定承認者ハ之ヲ競買ニ付スルコトヲ要ス但裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ相續財產ノ全部又ハ一部ノ價額ヲ辨濟シテ其競買ヲ止ムルコトヲ得

第一千三十一條 相續債權者及ヒ受遺者ハ自己ノ費用ヲ以テ相續財產ノ競買又ハ鑑定ニ參加スルコトヲ得此場合ニ於テハ第二百六十條第二項ノ規定ヲ準用ス

第一千三十二條 限定承認者カ第一千二十五條ニ定メタル公告若クハ催告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ同條ノ規定ニ依リテ定メタル期間內ニ或債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ爲シタルニ因リ他ノ債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス第一千二十七條乃至第一千二十九條ノ規定ニ違反シテ辨濟ヲ爲シタルトキ亦同

前項ノ規定ハ情ヲ知リテ不當ニ辨濟ヲ受ケタル債權者又ハ受遺者ニ對スル他ノ債權者又ハ受遺者ノ求償ヲ妨ケス

第七百二十四條ノ規定ハ前二項ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第一千三十三條 第一千二十五條第一項ノ期間內ニ申出テサリシ債權者及ヒ受遺者コソテ

民法 相續 相續ノ承認及拋棄 拋棄

限定承認者ニ知レザリシ者ハ殘餘財産ニ付テハ其權利ヲ行フコトヲ得但相續財産ニ付キ特別擔保ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

### 第三節 拋棄

第一千二十四條 相續ノ拋棄ヲ爲サント欲スル者ハ相續開始地ノ裁判所ニ其旨ヲ申述スルコトヲ要ス

第一千三十五條 相續ノ拋棄ハ相續開始ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

數人ノ遺産相續人アル場合ニ於テ其一人カ拋棄ヲ爲シタルトキハ其拋棄シタル相續分ハ他ノ相續人ノ相續分ニ應ジテ之ニ歸屬ス

第一千三十六條 相續ノ拋棄ヲ爲シタル者ハ其拋棄ニ因リテ相續人ト爲ル者カ相續財産ノ管理ヲ始ムルコトヲ得ルマテ自己ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ其財産ノ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス

第六百四十五條、第六百四十六條、第六百五十條第一項、第二項及ヒ第一千十七條第二項、第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

### 第四章 財産ノ分離

第一千三十七條 相續債權者又ハ受遺者ハ相續開始ノ時ヨリ三個月内ニ相續人ノ財産中ヨリ相

續財産ヲ分離セシムコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得其期間満了ノ後ト雖モ相續財産カ相續人ノ固有財産ト混合セサル間亦同シ

裁判所カ前項ノ請求ニ因リテ財産ノ分離ヲ命シタルトキハ其請求ヲ爲シタル者ハ五日内ニ他ノ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シ財産分離ノ命令アリタルコト及ヒ一定ノ期間内ニ配當加入ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ二個月ヲ下ルコトヲ得ス

第一千三十八條 財産分離ノ請求ヲ爲シタル者及ヒ前條第二項ノ規定ニ依リテ配當加入ノ申出ヲ爲シタル者ハ相續財産ニ付キ相續人ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受ケル權利ヲ有ス

第一千三十九條 財産分離ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ相續財産ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

裁判所カ管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ第二十七條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第一千四十條 相續人ハ單純承認ヲ爲シタル後ト雖モ財産分離ノ請求アリタルトキハ爾後其固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ノ管理ヲ爲スコトヲ要ス但裁判所ニ於テ管理人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百四十五條乃至第六百四十七條及ヒ第六百五十條第一項、第二項ノ規定ハ相續財産ノ管理ヲ爲ス相續人ト財産分離ノ請求ヲ爲シタル者及ヒ配當加入ノ申出ヲ爲シタル者トノ間

ニ之ヲ準用ス

第千四十一條 財産ノ分離ハ不動産ニ付テハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第千四十二條 第三百四條ノ規定ハ財産分離ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千四十三條 相続人ハ第千三十七條第一項及ヒ第二項ノ期間滿了前ニハ相続債權者及ヒ受遺者ニ對シテ辨濟ヲ拒ムコトヲ得

財産分離ノ請求アリタルトキハ相続人ハ第千三十七條第二項ノ期間滿了ノ後相続財産ヲ以テ財産分離ノ請求又ハ配當加入ノ申出ヲ爲シタル債權者及ヒ受遺者ニ各其債權ノ割合ニ應ジテ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス但優先權ヲ有スル債權者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第千二十八條乃至第千三十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千四十四條 財産分離ノ請求ヲ爲シタル者及ヒ配當加入ノ申出ヲ爲シタル者ハ相続財産ヲ以テ全部ノ辨濟ヲ受クルコト能ハサリシ場合ニ非サレハ相続人ニ對シテ其權利ヲ行フコトヲ得ス但相続人ノ債權者ハ之ニ先テ辨濟ヲ受クルコトヲ得

第千四十五條 相続人ハ其固有財産ヲ以テ相続債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ之ニ相當ノ擔保ヲ供シテ財産分離ノ請求ヲ防止シ又ハ其效力ヲ消滅セシムルコトヲ得但相続人ノ

債權者カ之ニ因リテ損害ヲ受クヘキコトヲ證明シテ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第千四十六條 相続人カ限定承認ヲ爲スコトヲ得ル間又ハ相続財産カ相続人ノ固有財産ト混合セサル間ハ其債權者ハ財産分離ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第千二十三條、第千二十五條乃至第千三十二條、第千三十九條及ヒ第千四十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但第千二十五條ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告及ヒ催告ハ財産分離ノ請求ヲ爲シタル債權者ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

### 第五章 相続人ノ曠缺

第千四十七條 相続人アルコト分明ナラサルトキハ相続財産ハ之ヲ法人トス

第千四十八條 前條ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ相続財産ノ管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

裁判所ハ遲滯ナク管理人ノ選任ヲ公告スルコトヲ要ス

第千四十九條 第二十七乃至第二十九條ノ規定ハ相続財産ノ管理人ニ之ヲ準用ス

第千五十條 管理人ハ相続債權者又ハ受遺者ノ請求アルトキハ之ニ相続財産ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

第千五十一條 第千四十八條第二項ニ定メタル公告アリタル後二个月内ニ相続人カ現出セザ

ルトキハ管理人ハ遲滞ナク相續開始地ニ於テ一切ノ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

第七十九條第二項、第三項及ヒ第千二十六條乃至千三十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但第千三十條但書ノ規定ハ此限ニ在ラズ

第千五十二條 相續人アルコト確實ナルニ至リタルトキハ法人ハ存立セザリシモノト看做ス但管理人カ其權限内ニ於テ爲シタル行爲ノ效力ヲ妨ケズ

第千五十三條 管理人ノ代理權ハ相續人カ現出シテ相續ノ承認ヲ爲シタル時ニ於テ消滅ス前項ノ場合ニ於テハ管理人ハ遲滞ナク相續人ニ對シテ管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス

第千五十四條 第千五十一條第一項ノ規定ニ依リテ定メタル期間満了ノ後仍ホ相續人アルコト分明ナラサルトキハ裁判所ハ管理人又ハ檢事ノ請求ニ因リ相續權ヲ有スル者アラハ一定ノ期間内ニ其權利ヲ主張スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ一年ヲ下ルコトヲ得ス

第千五十五條 前條ノ期間内ニ相續權ヲ主張スル者ナキトキハ相續財產ハ國庫ニ歸屬ス此場合ニ於テハ第千五十三條ノ規定ヲ準用ス

相續債權者及ヒ受遺者ハ國庫ニ對シテ其權利ヲ行フコトヲ得ス

### 第六章 遺言

#### 第一節 總則

第千五十六條 遺言ハ本法ニ定メタル方式ニ從フニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第千五十七條 滿十五年ニ達シタル者ハ遺言ヲ爲スコトヲ得

第千五十八條 第四條、第九條、第十二條及ヒ第十四條ノ規定ハ遺言ニハ之ヲ適用セズ

第千五十九條 遺言者ハ遺言ヲ爲ス時ニ於テ其能力ヲ有スルコトヲ要ス

第千六十條 遺言者ハ包括又ハ特定ノ名義ヲ以テ其財產ノ全部又ハ一部ヲ處分スルコトヲ得但遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス

第千六十一條 第九百六十四條及ヒ第九百六十五條ノ規定ハ受遺者ニ之ヲ準用ス

第千六十二條 被後見人カ後見ノ計算終了前ニ後見人又ハ其配偶者若クハ直系卑屬ノ利益ト爲ルヘキ遺言ヲ爲シタルトキハ其遺言ハ無効トス

前項ノ規定ハ直系血族、配偶者又ハ兄弟姉妹カ後見人タル場合ニハ之ヲ適用セズ

#### 第二節 遺言ノ方式

##### 第一款 普通方式

第千六十三條 遺言ハ自筆證書、公正證書又ハ秘密證書ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス但特別

民法 相續 遺言 總則 遺言ノ方式



方式ニ依ルコトヲ許ス場合ハ此限ニ在ラス

第一千六十四條 自筆證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ遺言者其全文、日附及ヒ氏名ヲ自書シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

自筆證書中ノ挿入、削除其他ノ變更ハ遺言者其場所ヲ指示シ之ヲ變更シタル旨ヲ附記シテ特ニ之ニ署名シ且其變更ノ場所ニ捺印スルニ非サレハ其效ナシ

第一千六十五條 公正證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ左ノ方式ニ從フコトヲ要ス

- 一 證人二人以上ノ立會アルコト
  - 二 遺言者カ遺言ノ趣旨ヲ公證人ニ口授スルコト
  - 三 公證人カ遺言者ノ口述ヲ筆記シ之ヲ遺言者及ヒ證人ニ讀聞カスコト
  - 四 遺言者及ヒ證人カ筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後各自之ニ署名、捺印スルコト
- 但遺言者カ署名スルコト能ハサル場合ニ於テハ公證人其事由ヲ附記シテ署名ニ代フルコトヲ得

五 公證人カ其證書ハ前四號ニ掲ケタル方式ニ從ヒテ作りタルモノナル旨ヲ附記シテ之ニ署名、捺印スルコト

第一千六十六條 祕密證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ左ノ方式ニ從フコトヲ要ス

- 一 遺言者カ其證書ニ署名、捺印スルコト
- 二 遺言者カ其證書ヲ封シ證書ニ用キタル印章ヲ以テ之ニ封印スルコト
- 三 遺言者カ公證人一人及ヒ證人二人以上ノ前ニ封書ヲ提出シテ自己ノ遺言書ナル旨及ヒ其筆者ノ氏名、住所ヲ申述スルコト
- 四 公證人カ其證書提出ノ日附及ヒ遺言者ノ申述ヲ封紙ニ記載シタル後遺言者及ヒ證人ト共ニ之ニ署名、捺印スルコト

第一千六十四條第二項ノ規定ハ祕密證書ニ依ル遺言ニ之ヲ準用ス

第一千六十七條 祕密證書ニ依ル遺言ハ前條ニ定メタル方式ニ缺クルモノアルモ第一千六十四條ノ方式ヲ具備スルトキハ自筆證書ニ依ル遺言トシテ其効力ヲ有ス

第一千六十八條 言語ヲ發スルコト能ハサル者カ祕密證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ遺言者ハ公證人及ヒ證人ノ前ニ於テ其證書ハ自己ノ遺言書ナル旨並ニ其筆者ノ氏名、住所ヲ封紙ニ自書シテ第一千六十六條第一項第三號ノ申述ニ代フルコトヲ要ス

公證人ハ遺言者カ前項ニ定メタル方式ヲ踐ミタル旨ヲ封紙ニ記載シテ申述ノ記載ニ代フルコトヲ要ス

第一千六十九條 禁治産者カ本心ニ復シタル時ニ於テ遺言ヲ爲スニハ醫師二人以上ノ立會アル

遺言ニ立會ヒタル醫師ハ遺言者カ遺言ヲ爲ス時ニ於テ心神喪失ノ狀況ニ在ラザリシ旨ヲ遺言書ニ附記シテ之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス但秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ其封紙ニ右ノ記載及ヒ署名、捺印ヲ爲スコトヲ要ス

第一千七十條 左ニ掲ケタル者ハ遺言ノ證人又ハ立會人タルコトヲ得ス

- 一 未成年者
- 二 禁治產者及ヒ準禁治產者
- 三 剝奪公權者及ヒ停止公權者
- 四 遺言者ノ配偶者
- 五 推定相続人、受遺者及ヒ其配偶者並ニ直系血族
- 六 公證人ト家ヲ同クスル者及ヒ公證人ノ直系血族並ニ筆生、雇人

第一千七十一條 遺言ハ二人以上同一ノ證書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二款 特別方式

第一千七十二條 疾病其他ノ事由ニ因リテ死亡ノ危急ニ迫リタル者カ遺言ヲ爲サント欲スルトキハ證人三人以上ノ立會ヲ以テ其一人ニ遺言ノ趣旨ヲ口授シテ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ

於テハ其口授ヲ受ケタル者之ヲ筆記シテ遺言者及ヒ他ノ證人ニ讀聞カセ各證人筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ爲シタル遺言ハ遺言ノ日ヨリ二十日內ニ證人ノ一人又ハ利害關係人ヨリ裁判所ニ請求シテ其確認ヲ得ルニ非サレハ其效ナシ

裁判所ハ遺言カ遺言者ノ眞意ニ出テタル心證ヲ得ルニ非サレハ之ヲ確認スルコトヲ得ス

第一千七十三條 傳染病ノ爲メ行政處分ヲ以テ交通ヲ遮斷シタル場所ニ在ル者ハ警察官一人及ヒ證人一人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第一千七十四條 從軍中ノ軍人及ヒ軍屬ハ將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得若シ將校及ヒ相當官カ其場所ニ在ラサルトキハ準士官又ハ下士一人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

從軍中ノ軍人又ハ軍屬カ疾病又ハ傷痍ノ爲メ病院ニ在ルトキハ其院ノ醫師ヲ以テ前項ニ掲ケタル將校又ハ相當官ニ代フルコトヲ得

第一千七十五條 從軍中疾病、傷痍其他ノ事由ニ因リテ死亡ノ危急ニ迫リタル軍人及ヒ軍屬ハ證人二人以上ノ立會ヲ以テ口頭ニテ遺言ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル遺言ハ證人其趣旨ヲ筆記シテ之ニ署名、捺印シ且證人ノ一人

又ハ利害關係人ヨリ遲滯ナル理事又ハ主理ニ請求シテ其確認ヲ得ルニ非サレハ其效ナシ  
第一千七十二條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一千七十六條 艦船中ニ在ル者ハ軍艦及ヒ海軍所屬ノ船舶ニ於テハ將校又ハ相當官一人及ヒ  
證人二人以上其他ノ船舶ニ於テハ船長又ハ事務員一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言  
書ヲ作ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ將校又ハ相當官カ其艦船中ニ在ラサルトキハ準士官又ハ下士一人ヲ以テ  
之ニ代フルコトヲ得

第一千七十七條 第一千七十五條ノ規定ハ艦船遭難ノ場合ニ之ヲ準用ス但海軍ノ所屬ニ非サル船  
舶中ニ在ル者カ遺言ヲ爲シタル場合ニ於テハ其確認ハ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

第一千七十八條 第一千七十三條、第一千七十四條及ヒ第一千七十六條ノ場合ニ於テハ遺言者、筆者、  
立會人及ヒ證人ハ各自遺言書ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

第一千七十九條 第一千七十三條乃至第一千七十六條ノ場合ニ於テ署名又ハ捺印スルコト能ハサル  
者アルトキハ立會人又ハ證人ハ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス

第一千八十條 第一千六十四條第二項及ヒ第一千六十九條乃至第一千七十一條ノ規定ハ前八條ノ規定  
ニ依ル遺言ニ之ヲ準用ス

第一千八十一條 第一千七十二條乃至第一千七十九條ノ規定ニ依リテ爲シタル遺言ハ遺言者カ普通  
方式ニ依リテ遺言ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル時ヨリ六個月間生存スルトキハ其效ナシ

第一千八十二條 日本ノ領事ノ駐在スル地ニ在ル日本人カ公正證書又ハ秘密證書ニ依リテ遺言  
ヲ爲サント欲スルトキハ公證人ノ職務ハ領事之ヲ行フ

### 第三節 遺言ノ效力

第一千八十三條 遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其效力ヲ生ス

遺言ニ停止條件ヲ附シタル場合ニ於テ其條件カ遺言者ノ死亡後ニ成就シタルトキハ遺言ハ  
條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生ス

第一千八十四條 受遺者ハ遺言者ノ死亡後何時ニテモ遺贈ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得

遺贈ノ拋棄ハ遺言者ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス  
第一千八十五條 遺贈義務者其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ遺贈ノ承認又ハ  
拋棄ヲ爲スヘキ旨ヲ受遺者ニ催告スルコトヲ得若シ受遺者カ其期間内ニ遺贈義務者ニ對シ

テ其意思ヲ表示セサルトキハ遺贈ヲ承認シタルモノト看做ス  
第一千八十六條 受遺者カ遺贈ノ承認又ハ拋棄ヲ爲ス前ニ死亡シタルトキハ其相續人ハ自己ノ  
相續權ノ範圍内ニ於テ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示

シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千八十七條 遺贈ノ承認及ヒ拋棄ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第一千八十八條 第二項ノ規定ハ遺贈ノ承認及ヒ拋棄ニ之ヲ準用ス

第一千八十九條 受遺者ハ遺贈カ辨濟期ニ至ラサル間遺贈義務者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得停止條件附遺贈ニ付キ其條件ノ成否未定ノ間亦同シ

第一千九十條 受遺者ハ遺贈ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ル時ヨリ果實ヲ取得ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千九十一條 遺贈義務者カ遺言者ノ死亡後遺贈ノ目的物ニ付キ費用ヲ出ダシタルトキハ第二百九十九條ノ規定ヲ準用ス

果實ヲ收取スル爲メニ出ダシタル通常ノ必要費ハ果實ノ價格ヲ越エサル限度ニ於テ其償還ヲ請求スルコトヲ得

第一千九十二條 遺贈ハ遺言者ノ死亡前ニ受遺者カ死亡シタルトキハ其效力ヲ生セズ停止條件附遺贈ニ付テハ受遺者カ其條件ノ成就前ニ死亡シタルトキ亦同シ但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千九十三條 遺贈カ其效力ヲ生セサルトキ又ハ拋棄ニ因リ其效力ナキニ至リタルトキハ受遺者カ受シヘカリシモノハ相続人ニ歸屬ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千九十四條 遺贈ハ其目的タル權利カ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ相續財産ニ屬セサルトキハ其效力ヲ生セズ但其權利カ相續財産ニ屬セサルコトアルニ拘ハラズ之ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト認ムヘキトキハ此限ニ在ラス

第一千九十五條 相續財産ニ屬セサル權利ヲ目的トスル遺贈カ前條但書ノ規定ニ依リテ有效ナルトキハ遺贈義務者ハ其權利ヲ取得シテ之ヲ受遺者ニ移轉スル義務ヲ負フ若シ之ヲ取得スルコト能ハサルカ又ハ之ヲ取得スルコト付キ過分ノ費用ヲ要スルトキハ其價額ヲ辨償スルコトヲ要ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千九十六條 不特定物ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ受遺者カ追奪ヲ受ケタルトキハ遺贈義務者ハ之ニ對シテ賣主ト同シク擔保ノ責ニ任ス

前項ノ場合ニ於テ物ニ瑕疵アリタルトキハ遺贈義務者ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フルコトヲ要ス

第一千九十七條 遺言者カ遺贈ノ目的物ノ滅失若クハ變造又ハ其占有ノ喪失ニ因リテ第三者ニ

對シ價金ヲ請求スル權利ヲ有スルトキハ其權利ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

遺贈ノ目的物カ他ノ物ト附合又ハ混和シタル場合ニ於テ遺言者カ第二百四十四條又ハ第二百四十五條ノ規定ニ依リ合成物又ハ混和物ノ共有權ヲ取得シタルトキハ其共有權ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

第一千九十八條 遺贈ノ目的タル物又ハ權利カ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ受遺者ハ遺贈義務者ニ對シテ其權利ヲ消滅セシムヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得ス但遺言者カ其遺言ニ反對ノ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

第一千九十九條 債權ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ遺言者カ爾後辨濟ヲ受ケ且其受取リタル物カ尙ホ相續財産中ニ存スルトキハ其物ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

金錢ヲ目的トスル債權ニ付テハ相續財産中ニ其債權額ニ相當スル金錢ナキトキト雖モ其金額ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

第一千百條 負擔附遺贈ヲ受ケタル者ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ超エサル限度ニ於テノミ其負擔シタル義務ヲ履行スル責ニ任ス

受遺者カ遺贈ノ拋棄ヲ爲シタルトキハ負擔ノ利益ヲ受クヘキ者自ラ受遺者ト爲ルコトヲ得但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千百一條 負擔附遺贈ノ目的ノ價額カ相續ノ限定承認又ハ遺留分回復ノ訴ニ因リテ減少シタルトキハ受遺者ハ其減少ノ割合ニ應ジテ其負擔シタル義務ヲ免ル但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

#### 第四節 遺言ノ執行

第一千百二條 遺言書ノ保管者ハ相續ノ開始ヲ知リタル後遲滞ナク之ヲ相續開始地ノ裁判所ニ提出シテ其檢認ヲ請求スルコトヲ要ス遺言書ノ保管者ナキ場合ニ於テ相續人カ遺言書ヲ發見シタル後亦同シ

前項ノ規定ハ公正證書ニ依ル遺言ニハ之ヲ適用セズ  
封印アル遺言書ハ裁判所ニ於テ相續人又ハ其代理人ノ立會ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ開封スルコトヲ得ズ

第一千百三條 前條ノ規定ニ依リテ遺言書ヲ提出スルコトヲ怠リ、其檢認ヲ經スル遺言ヲ執行シ又ハ裁判所外ニ於テ其開封ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處セラル

第一千百四條 遺言者ハ遺言ヲ以テ一人又ハ數人ノ遺言執行者ヲ指定シ又ハ其指定テ第三者ニ

委託スルコトヲ得

遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者ハ遲滯ナシ其指定ヲ爲シテ之ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス

遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者カ其委託ヲ辭セントスルトキハ遲滯ナシ其旨ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス

第一千五百條 遺言執行者カ就職ヲ承諾シタルトキハ直チニ其任務ヲ行フコトヲ要ス

第一千五百六條 相續人其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ就職ヲ承諾スルヤ否ヤ

ヲ確答スヘキ旨ヲ遺言執行者ニ催告スルコトヲ得若シ遺言執行者カ其期間内ニ相續人ニ對

シテ確答ヲ爲ササルトキハ就職ヲ承諾シタルモノト看做ス

第一千五百七條 無能力者及ヒ破産者ハ遺言執行者タルコトヲ得ス

第一千五百八條 遺言執行者ナキトキ又ハ之ナキニ至リタルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ

因リ之ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ選任シタル遺言執行者ハ正當ノ理由アルニ非サレハ就職ヲ拒ムコトヲ

得ス

第一千五百九條 遺言執行者ハ遲滯ナシ相續財産ノ目錄ヲ調製シテ之ヲ相續人ニ交付スルコトヲ

要ス

遺言執行者ハ相續人ノ請求アルトキハ其立會ヲ以テ財産目錄ヲ調製シ又ハ公證人ヲシテ之ヲ調製セシムルコトヲ要ス

第一千百十條 遺言執行者ハ相續財産ノ管理其他遺言ノ執行ニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權利義務ヲ有ス

第六百四十四條乃至第六百四十七條及ヒ第六百五十條ノ規定ハ遺言執行者ト相續人トノ間ニ之ヲ準用ス

第一千百一十一條 遺言執行者アル場合ニ於テハ相續人ハ相續財産ヲ處分シ其他遺言ノ執行ヲ妨グヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第一千百一十二條 前三條ノ規定ハ遺言カ特定財産ニ關スル場合ニ於テハ其財産ニ付テノミ之ヲ適用ス

第一千百一十三條 遺言執行者ハ之ヲ相續人ノ代理人ト看做ス

第一千百一十四條 遺言執行者ハ已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ第三者ヲシテ其任務ヲ行

ハシムルコトヲ得ス但遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

遺言執行者カ前項但書ノ規定ニ依リ第三者ヲシテ其任務ヲ行ハシムル場合ニ於テハ相續人

ニ對シ第五百五條ニ定メタル責任ヲ負フ

第一千百十五條 數人ノ遺言執行者アル場合ニ於テハ其任務ノ執行ハ過半数ヲ以テ之ヲ決ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

各遺言執行者ハ前項ノ規定ニ拘ハラズ保存行為ヲ爲スコトヲ得

第一千百十六條 遺言執行者ハ遺言ニ報酬ヲ定メタルトキニ限り之ヲ受クルコトヲ得

裁判所ニ於テ遺言執行者ヲ選任シタルトキハ裁判所ハ事情ニ依リ其報酬ヲ定ムルコトヲ得

遺言執行者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ於テハ第六百四十八條第二項及ヒ第三項ノ規定ヲ準用ス

第一千百十七條 遺言執行者カ其任務ヲ怠リタルトキ其他正當ノ事由アルトキハ利害關係人ハ其解任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

遺言執行者ハ正當ノ事由アルトキハ就職ノ後ト雖モ其任務ヲ辭スルコトヲ得

第一千百十八條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ遺言執行者ノ任務カ終了シタル場合ニ之ヲ準用ス

第一千百十九條 遺言ノ執行ニ關スル費用ハ相続財産ノ負擔トス但之ニ因リテ遺留分ヲ減スル

コトヲ得ス

第五節 遺言ノ取消

第一千百二十條 遺言者ハ何時ニテモ遺言ノ方式ニ從ヒテ其遺言ノ全部又ハ一部ヲ取消スコトヲ得

第一千百二十一條 前ノ遺言ト後ノ遺言ト抵觸スルトキハ其抵觸スル部分ニ付テハ後ノ遺言ヲ以テ前ノ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ遺言ト遺言後ノ生前處分其他ノ法律行為ト抵觸スル場合ニ之ヲ準用ス

第一千百二十二條 遺言者カ故意ニ遺言書ヲ毀滅シタルトキハ其毀滅シタル部分ニ付テハ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス遺言者カ故意ニ遺贈ノ目的物ヲ毀滅シタルトキ亦同シ

第一千百二十三條 前三條ノ規定ニ依リテ取消サレタル遺言ハ其取消ノ行為ガ取消サレ又ハ效力ヲ生セサルニ至リタルトキト雖モ其效力ヲ回復セス但其行為ガ詐欺又ハ強迫ニ因ル場合ハ此限ニ在ラス

第一千百二十四條 遺言者ハ其遺言ノ取消權ヲ拋棄スルコトヲ得ス

第一千百二十五條 負擔附遺贈ヲ受ケタル者カ其負擔シタル義務ヲ履行セサルトキハ相続人ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ履行ナキトキハ遺言ノ取消ヲ裁判所ニ

民法 相続 遺言 遺言ノ取消

請求スルコトヲ得

### 第七章 遺留分

第一千二百六條 法定家督相続人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相続人ノ財産ノ半額ヲ受ク  
此地ノ家督相続人ハ遺留分トシテ被相続人ノ財産ノ三分ノ一ヲ受ク

第一千二百七條 遺産相続人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相続人ノ財産ノ半額ヲ受ク  
遺産相続人タル配偶者又ハ直系尊屬ハ遺留分トシテ被相続人ノ財産ノ三分ノ一ヲ受ク

第一千二百八條 遺留分ハ被相続人カ相続開始ノ時ニ於テ有セシ財産ノ價額ニ其贈與シタル  
財産ノ價額ヲ加ヘ其中ヨリ債務ノ全額ヲ控除シテ之ヲ算定ス

條件附權利又ハ存続期間ノ不確定ナル權利ハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ  
其價格ヲ定ム

第九百八十三條ニ掲ケタル權利ハ遺留分ノ算定ニ關シテハ其價額ヲ算入セス

第一千二百九條 贈與ハ相続開始前一年間ニ爲シタルモノニ限り前條ノ規定ニ依リテ其目的  
タル財産ノ價額ヲ算入ス其期間前ニ爲シタルモノト雖モ當事者雙方カ遺留分權利者ニ損害  
ヲ加フルコトヲ知リテ之ヲ爲シタルトキ亦同シ

第一千三十條 遺留分權利者及ヒ其承繼人ハ遺留分ヲ保全スルニ必要ナル限度ニ於テ遺贈及

ヒ第一千二十九條ニ掲ケタル贈與ノ減殺ヲ請求スルコトヲ得

第一千三十一條 條件附權利又ハ存続期間ノ不確定ナル權利ヲ以テ贈與又ハ遺贈ノ目的ト爲  
シタル場合ニ於テ其贈與又ハ遺贈ノ一部ヲ減殺スヘキトキハ遺留分權利者ハ第一千二十八  
條第二項ノ規定ニ依リテ定メタル價格ニ從ヒ直チニ其殘部ノ價額ヲ受贈者又ハ受遺者ニ給  
付スルコトヲ要ス

第一千三十二條 贈與ハ遺贈ヲ減殺シタル後ニ非サレハ之ヲ減殺スルコトヲ得ス

第一千三十三條 遺贈ハ其目的ノ價額ノ割合ニ應シテ之ヲ減殺ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ  
意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千三十四條 贈與ノ減殺ハ後ノ贈與ヨリ始メ順次ニ前ノ贈與ニ及フ

第一千三十五條 受贈者ハ其返還スヘキ財産ノ外尙ホ減殺ノ請求アリタル日以後ノ果實ヲ返  
還スルコトヲ要ス

第一千三十六條 減殺ヲ受クヘキ受贈者ノ無資力ニ因リテ生スル損失ハ遺留分權利者ノ負擔  
ニ歸ス

第一千三十七條 負擔附贈與ハ其目的ノ價額中ヨリ負擔ノ價額ヲ控除シタルモノニ付キ其減  
殺ヲ請求スルコトヲ得



第一千三百二十八條 不相當ノ對價ヲ以テ爲シタル有價行爲ハ當事者雙方カ遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リテ爲シタルモノニ限り之ヲ贈與ト看做ス此場合ニ於テ遺留分權利者カ其滅殺ヲ請求スルトキハ其對價ヲ償還スルコトヲ要ス

第一千三百二十九條 滅殺ヲ受クヘキ受贈者カ贈與ノ目的ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ遺留分權利者ニ其價額ヲ辨償スルコトヲ要ス但讓受人カ讓渡ノ當時遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リタルトキハ遺留分權利者ハ之ニ對シテモ滅殺ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ受贈者カ贈與ノ目的ノ上ニ權利ヲ設定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第一千四百十條 受贈者及ヒ受遺者ハ滅殺ヲ受クヘキ限度ニ於テ贈與又ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ遺留分權利者ニ辨償シテ返還ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第一項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一千四十一條 滅殺ノ請求權ハ遺留分權利者カ相續ノ開始及ヒ滅殺スヘキ贈與又ハ遺贈アリタルコトヲ知リタル時ヨリ一年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス相續開始ノ時ヨリ十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第一千四十二條 第九百九十一條、第一千條、第一千三條及ヒ第一千四條ノ規定ハ遺留分ニ之ヲ準用ス

民法中修正案理由書

明治二十三年法律第九十八號民法財産取得編、人事編ハ頗ル舊慣ニ悖リ其他穩當ヲ缺ク規定多カラサルカ故ニ其修正ヲ行ハンカ爲メ明治二十五年法律第八號ヲ以テ民法ノ他ノ編章ト共ニ其施行ヲ延期セラレタリ爾來政府ハ法典調査會ヲ設ケ周密慎重ナル調査ヲ遂ケ舊慣ニ民法第一編、第二編、第三編ヲ提出シ幸ニ帝國議會ノ協賛ヲ經テ公布セラレタリ今又本案ヲ提出スルニ至ル本案ハ之ヲ舊法ニ比スレハ大ニ舊慣ヲ參酌シ不穩當ナル規定ヲ除キ其他改良ヲ加ヘタル點多カララスト信ス

修正商法草案

商法別冊ノ通之ヲ定ム

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十三年法律第三十二號商法ハ第三編ヲ除ク外此法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

# 商法

## 第一編 總則

第一章 法例

第二章 商人

第三章 商業登記

第四章 商號

第五章 商業帳簿

第六章 商業使用人

第七章 代理商

## 第二編 會社

第一章 總則

第二章 合名會社

商法 目次

一 同 二 同 三 四 五 六 九 同 十 一

丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁

第一節 設立	十丁
第二節 會社ノ内部ノ關係	十一丁
第三節 會社ノ外部ノ關係	十三丁
第四節 社員ノ退社	十四丁
第五節 解散	十五丁
第六節 清算	十八丁
第三章 合資會社	二十一丁
第四章 株式會社	二十三丁
第一節 設立	同丁
第二節 株式	二十九丁
第三節 會社ノ機關	三十二丁
第一款 株主總會	同丁
第二款 取締役	三十四丁
第三款 監查役	三十七丁

第四節 會社ノ計算	三十九丁
第五節 社債	三十一丁
第六節 定款ノ變更	四十三丁
第七節 解散	四十六丁
第八節 清算	四十七丁
第五章 株式合資會社	四十九丁
第六章 外國會社	五十三丁
第七章 罰則	五十四丁
第三編 商行爲	五十七丁
第一章 總則	同丁
第二章 賣買	六十二丁
第三章 交互計算	六十四丁
第四章 匿名組合	六十五丁

法商、目次

第五章	仲立營業	六十六丁
第六章	問屋營業	六十八丁
第七章	運送取扱營業	六十九丁
第八章	運送營業	七十一丁
第一節	物品運送	同丁
第二節	旅客運送	七十五丁
第九章	寄託	七十六丁
第一節	總則	同丁
第二節	倉庫營業	七十七丁
第十章	保險	八十三丁
第一節	損害保險	同丁
第一款	總則	同丁
第二款	火災保險	九十一丁
第三款	運送保險	同丁

四

第二節	生命保險	九十二丁
第四編	手形	九十五丁
第一章	爲替手形	同丁
第一節	總則	同丁
第二節	振出	九十七丁
第三節	裏書	九十九丁
第四節	引受	百丁
第五節	擔保ノ請求	百二丁
第六節	支拂	百五丁
第七節	償還ノ請求	百六丁
第八節	保證	百九丁
第九節	參加	同丁
第一款	參加引受	百十丁
第二款	參加支拂	百十一丁
第十節	拒絕證書	百十二丁

目次

五

第十二節 爲替手形ノ複本及ヒ贋本	百十四丁
第二章 約束手形	百十五丁
第三章 小切手	百十七丁
第五編 海商	百二十一丁
第一章 船舶及ヒ船舶所有者	同 丁
第二章 船員	百二十五丁
第一節 船長	同 丁
第二節 海員	百二十九丁
第三章 運送	百三十三丁
第一節 物品運送	同 丁
第一款 總則	同 丁
第二款 船荷證券	百四十一丁
第二節 旅客運送	百四十四丁

六

第四章 海損	百四十五丁
第五章 保險	百四十八丁
第六章 船舶債權者	百五十六丁

# 商法

## 第一編 總則

### 第一章 法例

第一條 商事ニ關シ本法ニ規定ナキモノニ付テハ商慣習法ヲ適用シ商慣習法ナキトキハ民法ヲ適用ス

第二條 公法人ノ商行為ニ付テハ法令ニ別段ノ定ナキトキニ限り本法ノ規定ヲ適用ス

第三條 當事者ノ一方ノ爲メニ商行為タル行為ニ付テハ本法ノ規定ヲ雙方ニ適用ス

### 第二章 商人

第四條 本法ニ於テ商人トハ自己ノ名ヲ以テ商行為ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第五條 未成年者又ハ妻カ商業ヲ營ムトキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス商事會社ノ無限責任社員ト爲ルトキ亦同シ

第六條 後見人カ被後見人ノ爲メニ商業ヲ營ムトキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス被後見人カ商事會社ノ無限責任社員トシテ亦同シ



後見人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七條 戸戶ニ就キ又ハ道路ニ於テ物ヲ賣買スル者其他小商人ニハ商業登記、商號及ヒ商業帳簿ニ關スル規定ヲ適用セシム

### 第二章 商業登記

第八條 本法ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ハ當事者ノ請求ニ因リ其營業所ノ裁判所ニ備ヘタル商業登記簿ニ之ヲ登記ス

第九條 本店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ支店ノ所在地ニ於テモ亦之ヲ登記スルコトヲ要ス

第十條 登記シタル事項ハ裁判所遲滞ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第十一條 登記スヘキ事項ハ登記及ヒ公告ノ後ニ非サレハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス登記及ヒ公告ノ後ト雖モ第三者カ正當ノ事由ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキ亦同

第十二條 支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ヲ登記セカリシトキハ前條ノ規定ハ其支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テノミチ之ヲ適用ス

第十三條 登記ハ其公告ト抵觸スルトキト雖モ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第十四條 登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項カ消滅シタルトキハ當事者ハ遲滞ナク變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

### 第四章 商號

第十五條 商人ハ其氏、氏名其他ノ名稱ヲ以テ商號ト爲スコトヲ得

第十六條 會社ノ商號中ニハ其種類ニ從ヒ合名會社、合資會社、株式會社又ハ株式合資會社ナル文字ヲ用ユルコトヲ要ス

第十七條 會社ニ非スシテ商號中ニ會社タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ユルコトヲ得ス會社ノ營業ヲ讓受ケタルトキト雖モ亦同シ

第十八條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテ其使用ヲ止ムヘキコトヲ請求スルコトヲ得但損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

同市町村内ニ於テ同一ノ營業ノ爲メニ他人ノ登記シタル商號ヲ使用スル者ハ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ之ヲ使用スルモノト推定ス

第十九條 商號ノ讓渡ハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十條 商號ト共ニ營業ヲ讓渡シタル場合ニ於テ當事者カ別段ノ意思ヲ表示セザリシトキハ讓渡人ハ同市町村内ニ於テ二十年間同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

讓渡人カ同一ノ營業ヲ爲ササル特約ヲ爲シタルトキハ其特約ハ同府縣内且三十年ヲ超エサル範圍内ニ於テノミ其效力ヲ有ス

讓渡人ハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 前條ノ規定ハ營業ノミヲ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 商號ノ登記ヲ爲シタル者カ其商號ヲ廢止シ又ハ之ヲ變更シタル場合ニ於テ其廢止又ハ變更ノ登記ヲ爲ササルトキハ利害關係人ハ其登記ノ抹消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ異議アラハ其期間内ニ之ヲ申立ツヘキ旨ヲ催告シ若シ其期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ直チニ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

### 第五章 商業帳簿

第二十三條 商人ハ帳簿ヲ備ヘ之ニ日日ノ取引其他財産ニ影響ヲ及ホスヘキ一切ノ事項ヲ整理且明瞭ニ記載スルコトヲ要ス但家事費用ハ一个月毎ニ其總額ヲ記載スルヲ以テ足ル小賣ノ取引ハ現金賣ト掛賣トヲ分チ日日ノ賣上總額ノミヲ記載スルコトヲ得

第二十四條 商人ハ開業ノ時及ヒ毎年一回一定ノ時期ニ於テ動産、不動産、債權、債務其他ノ

財産ノ總目録及ヒ貸方借方ノ對照表ヲ作り特ニ設ケタル帳簿ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス  
財産目録ニハ動産、不動産、債權其他ノ財産ニ其目録調製ノ時ニ於ケル價格ヲ附スルコトヲ要ス

第二十五條 年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ毎配當期ニ前條ノ規定ニ從ヒ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第二十六條 商人ハ十年間其商業帳簿及ヒ其營業ニ關スル信書ヲ保存スルコトヲ要ス  
前項ノ期間ハ商業帳簿ニ付テハ其帳簿閉鎖ノ時ヨリ之ヲ起算ス

### 第六章 商業使用人

第二十七條 商人ハ支配人ヲ選任シ其本店又ハ支店ニ於テ其商業ヲ管マシムルコトヲ得

第二十八條 支配人ハ主人ニ代ハリテ其營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

支配人ハ番頭、手代其他ノ使用人ヲ選任又ハ解任スルコトヲ得

支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十九條 支配人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ置キタル本店又ハ支店ノ所在地ニ於テ主人之ヲ登記スルコトヲ要ス

第三十條 支配人ハ主人ノ許諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ商行為ヲ爲シ又ハ商  
事會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

支配人カ前項ノ規定ニ反シテ自己ノ爲メニ商行為ヲ爲シタルトキハ主人ハ之ヲ以テ自己ノ  
爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ニ定メタル權利ハ主人カ其行為ヲ知リタル時ヨリ二週間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス行  
爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三十一條 商人ハ番頭又ハ手代ヲ選任シ其營業ニ關スル或種類又ハ特定ノ事項ヲ委任スル  
コトヲ得

番頭又ハ手代ハ其委任ヲ受タル事項ニ關シ一切ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十二條 支配人、番頭又ハ手代ニ非サル使用人ハ主人ニ代ハリテ法律行為ヲ爲ス權限ヲ  
有セサルモノト推定ス

第三十三條 本章ノ規定ハ主人ト商業使用人トノ間ニ生スル雇傭關係ニ付キ民法ノ規定ヲ適  
用スルコトヲ妨ケス

### 第七章 代理商

第三十四條 代理商トハ使用人ニ非スシテ一定ノ商人ノ爲メニ平常其營業ノ部類ニ屬スル商

行為ノ代理又ハ媒介ヲ爲ス者ヲ謂フ

第三十五條 代理商カ商行為ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルトキハ遲滯ナシ本人ニ對シテ其通知  
ヲ發スルコトヲ要ス

第三十六條 代理商ハ本人ノ許諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ本人ノ營業ノ部類  
ニ屬スル商行為ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得  
ス

第三十條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條 物品販賣ノ委託ヲ受ケタル代理商ハ賣買ノ目的物ノ瑕疵又ハ其數量ノ不足其他  
賣買ノ履行ニ關スル通知ヲ受ケル權限ヲ有ス

第三十八條 當事者カ契約ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ二个月前ニ豫告ヲ爲シテ其  
契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

當事者カ契約ノ期間ヲ定メタルト否トナ問ハス已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者  
ハ何時コテモ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 代理商ハ商行為ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルニ因リテ生シタル債權ニ付キ本人ノ  
爲メニ占有スル物ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限ニ在ラス

## 第二編 會社

### 第一章 總則

第四十條 會社ハ商行爲ヲ爲スヲ業トスル目的ヲ以テノミ之ヲ設立スルコトヲ得

第四十一條 會社ハ合名會社、合資會社、株式會社及ヒ株式合資會社ノ四種トス

第四十二條 會社ハ之ヲ法人トス

會社ノ住所ハ其本店ノ所在地ニ在ルモノトス但支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テハ其支店ノ所在地ニ在ルモノト看做ス

第四十三條 會社ノ設立ハ其本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十四條 會社ハ其本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ開業ノ準備ニ著手スルコトヲ得ス

第四十五條 會社カ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後六个月内ニ開業ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其解散ヲ命スルコトヲ得但正當ノ事由アルトキハ裁判所ハ其會社ノ請求ニ因リ此期間ヲ伸長スルコトヲ得

第四十六條 會社カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ

請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其解散ヲ命スルコトヲ得

## 第二章 合名會社

### 第一節 設立

第四十七條 合名會社ヲ設立スルニハ定款ヲ作ルコトヲ要ス

第四十八條 合名會社ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載シ各社員之ニ署名スルコトヲ要ス

一 目的

二 商號

三 社員ノ氏名、住所

四 本店及ヒ支店ノ所在地

五 社員ノ出資ノ種類及ヒ價格又ハ評價ノ標準

第四十九條 會社ハ定款ヲ作リタル日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事

項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 前條第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項

二 本店及ヒ支店

三 設立ノ年月日

四 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

五 社員ノ出資ノ種類及ヒ財產ヲ目的トスル出資ノ價格

六 會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メタルトキハ其氏名

會社設立ノ後支店ヲ設ケタルトキハ其支店ノ所在地ニ於テハ一週間内ニ前項ニ定メタル登

記ヲ爲シ本店及ヒ他ノ支店ノ所在地ニ於テハ同期間内ニ其支店ヲ設ケタルコトヲ登記スル

コトヲ要ス

第五十條 會社カ其本店又ハ支店ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ一週間内ニ移轉ノ登

記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ同期間内ニ前條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ本店又ハ支店ヲ移轉シタルトキハ其移轉ノミノ登記ヲ爲

スコトヲ要ス

第五十一條 第四十九條第一項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ一週間内ニ本店及

ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

### 第二節 會社ノ内部ノ關係

第五十二條 會社ノ内部ノ關係ニ付テハ定款又ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ組合ニ關スル民

法ノ規定ヲ準用ス

商法 會社 合名會社 設立 會社ノ内部ノ關係

第五十三條 社員カ債權ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ債務者カ辨濟期ニ辨濟ヲ爲サザリシトキハ社員ハ其辨濟ノ責ニ任ス此場合ニ於テハ其利息ヲ拂フ外尙ホ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第五十四條 各社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第五十五條 支配人ノ選任及ヒ解任ハ特ニ業務執行者ヲ定メタルトキト雖モ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第五十六條 定款ノ變更其他會社ノ目的ノ範圍ニ屬セサル行爲ヲ爲スニハ總社員ノ同意アルコトヲ要ス

第五十七條 社員カ他ノ社員ノ承諾ヲ得シテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ其讓渡ハ之ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十八條 社員ハ他ノ社員ノ承諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行為ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

第三十條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三節 會社ノ外部ノ關係

第五十九條 定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メサルトキハ各社員會社ヲ代表ス

第六十條 會社ヲ代表スヘキ社員ハ會社ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

民法第四十四條第一項及ヒ第五十四條ノ規定ハ會社ニ之ヲ準用ス

第六十一條 會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ各社員連帶シテ其辨濟ノ責ニ任ス

第六十二條 設立ノ後會社ニ加入シタル社員ハ其加入前ニ生シタル會社ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負フ

第六十三條 社員ニ非サル者ト雖モ之ヲ社員ナリト信スヘキ正當ノ理由アルトキハ善意ノ第三者ニ對シテ社員ト同一ノ責任ヲ負フ

第六十四條 社員ノ持分ノ減少ハ之ヲ以テ會社ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス但債權者カ二年間之ニ對シテ異議ヲ述ヘザリシトキハ此限ニ在ラス

第六十五條 會社ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

商法 會社 合名會社 會社ノ外部ノ關係 社員ノ退社

前項ノ規定ニ反シテ爲シタル配當ハ會社ノ債權者之ヲ返還セシムルコトヲ得

第四節 社員ノ退社

第六十六條 定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メザリシトキ又ハ或社員ノ終身間會社ノ存續スニキコトヲ定メタルトキハ各社員ハ事業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但六ヶ月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

會社ノ存立時期ヲ定メタルト否トチ問ハス已ムコトヲ得ツル事由アルトキハ各社員ハ何時ニテモ退社ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 前條ニ掲ケタル場合ノ外社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス

- 一 定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 總社員ノ同意
- 三 死亡
- 四 破産
- 五 禁治産
- 六 除名

第六十八條 社員ノ除名ハ左ノ場合ニ限リ他ノ社員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但除名

タル社員ニ其旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其社員ニ對抗スルコトヲ得ス

一 出資ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ催告ヲ受ケタル後相當ノ期間内ニ出資ヲ爲ササルトキ

二 第五十八條ノ規定ニ違反シタルトキ

三 會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルニ當リ會社ニ對シテ不正ノ行爲ヲ爲シタルトキ

四 會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セサル場合ニ於テ其業務ノ執行ニ關與シタルトキ

五 此他社員ノ重要ナル義務ヲ盡ササルトキ

第六十九條 退社員ハ勞務又ハ信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタルトキト雖モ其持分ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七十條 退社員ハ退社ノ登記前ニ生シタル會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負フ此責任ハ退社ノ登記後二年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ規定ハ他ノ社員ノ承諾ヲ得テ持分ヲ讓渡シタル社員ニ之ヲ準用ス

第五節 解散

第七十一條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル事由ノ發生
  - 二 會社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能
  - 三 總社員ノ同意
  - 四 會社ノ合併
  - 五 社員カ一人ト爲リタルコト
  - 六 會社ノ破産
  - 七 裁判所ノ命令
- 第七十二條 前條第一號ノ場合ニ於テハ社員ノ全部又ハ一部ノ同意ヲ以テ會社ヲ繼續スルコトヲ得但同意ヲ爲サザリシ社員ハ退社ヲ爲シタルモノト看做ス
- 第七十三條 會社カ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外一週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス
- 第七十四條 會社ヲ合併ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
- 第七十五條 會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ決議ノ日ヨリ一週間内ニ其債權者ニ對シテ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要ス

- 前項ノ期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス
- 第七十六條 債權者カ前條ノ期間内ニ會社ノ合併ニ對シテ異議ヲ述ヘザリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス
- 債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ會社ハ之ニ辨濟ヲシ又ハ當ノ擔保ヲ供スルニ非ザレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス
- 前項ノ規定ニ反シテ合併ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ異議ヲ述ヘタル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス
- 第七十七條 會社カ第七十五條ニ定メタル公告ヲ爲サスニテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ其債權者ニ對抗スルコトヲ得ス
- 會社カ知レタル債權者ニ催告ヲ爲サスニテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ其債權者ニ對抗スルコトヲ得ス
- 第七十八條 會社カ合併ヲ爲シタルトキハ合併後存續スル會社ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ消滅シタル會社ニ付テハ、散ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ第四十九條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス
- 第七十九條 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ニ對シテ其債權者ニ對抗スルコトヲ得ス



ル會社ノ權利義務ヲ承繼ス

第八十條 已トコトヲ得サル事由アルトキハ各社員ハ會社ノ解散ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但裁判所ハ社員ノ請求ニ因リ會社ノ解散ニ代ヘテ或社員ヲ除名スルコトヲ得

#### 第六節 清算

第八十一條 會社ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト看做ス

第八十二條 合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外後十五條ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス但定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ會社財産ノ處分方法ヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス

會社財産ハ債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供シタル後ニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス但債權者ノ承諾ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條 清算ハ總社員若クハ其相續人又ハ其選任シタル者ニ於テ之ヲ爲ス

清算人ノ選任ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第八十四條 第七十一條第五號ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第八十五條 會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第八十六條 會社カ事業ニ著手シタル後其設立カ取消サレタルトキハ解散ノ場合ニ準シテ清算ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ第八十四條ノ規定ヲ準用ス

第八十七條 清算人ノ選任アリタルトキハ其清算人ハ一週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ自己ノ氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第八十八條 清算人ノ職務左ノ如シ

一 現務ノ結了

二 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟

三 殘餘財産ノ分配

清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

民法第八十二條ノ規定ハ合名會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十九條 會社ニ現存スル財産カ會社ノ債務ヲ完済スルニ足ラサルトキハ清算人ハ辨濟期ニ拘ハラス社員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十條 清算人數人アルトキハ清算ニ關スル行爲ハ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス但第三者ニ對シテハ各自會社ヲ代表ス

ル會社ノ權利義務ヲ承繼ス

第八十條 已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各社員ハ會社ノ解散ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但裁判所ハ社員ノ請求ニ因リ會社ノ解散ニ代ヘテ或社員ヲ除名スルコトヲ得

第六節 清算

第八十一條 會社ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト看做ス  
第八十二條 合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外後十五條ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス但定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ會社財産ノ處分方法ヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス  
會社財産ハ債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供シタル後ニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス但債權者ノ承諾ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條 清算ハ總社員若シハ其相續人又ハ其選任シタル者ニ於テ之ヲ爲ス  
清算人ノ選任ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第八十四條 第七十一條第五號ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第八十五條 會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第八十六條 會社カ事業ニ著手シタル後其設立カ取消サレタルトキハ解散ノ場合ニ準シテ清算ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ第八十四條ノ規定ヲ準用ス

第八十七條 清算人ノ選任アリタルトキハ其清算人ハ一週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ自己ノ氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第八十八條 清算人ノ職務左ノ如シ

- 一 現務ノ結了
- 二 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟
- 三 殘餘財産ノ分配

清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

民法第八十一條ノ規定ハ合名會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第八十九條 會社ニ現存スル財産カ會社ノ債務ヲ完済スルニ足ラサルトキハ清算人ハ辨濟期ニ拘ハラズ社員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十條 清算人數人アルトキハ清算ニ關スル行爲ハ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス但第三者ニ對シテハ各自會社ヲ代表ス

第九十一條 清算人ノ代理權ニ加ヘシテ制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス  
第九十二條 清算人ハ就職ノ後遲滞ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ  
作り之ヲ社員ニ交付スルコトヲ要ス

清算人ハ社員ノ請求ニ因リ毎月清算ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス  
第九十三條 社員ヲ選任シタル清算人ハ何時モ之ヲ解任スルコトヲ得此解任ハ社員ノ過  
半數ヲ以テ之ヲ決ス

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第九十四條 清算人ヲ解任又ハ變更ハ一週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ之ヲ登記スル  
コトヲ要ス

第九十五條 清算人ノ任務ヲ終了シタルトキハ清算人ハ遲滞ナク計算ヲ爲シテ各社員ノ承認  
ヲ求ムルコトヲ要ス

前項ノ計算ニ對シ社員ガ一個月内ニ異議ヲ述ヘザリントキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス  
但清算人ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此限ニ在ラス

第九十六條 清算ヲ終了シタルトキハ清算人ハ遲滞ナク本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記  
ヲ爲スコトヲ要ス

第九十七條 會社ノ帳簿其營業ニ關スル信書及ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ清算終了ノ登記  
後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其保存者ハ社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ定ム

第九十八條 第六十一條ニ定メタル社員ノ責任ハ清算終了ノ登記後二年ヲ經過シタルトキハ  
時効ニ因リテ消滅ス會社解散ノ登記後五年ヲ經過シタルトキ亦同シ  
分配セザル殘餘財産尙ホ存スル場合ニ於テ會社ノ債權者ガ之ニ對シテ辨濟ヲ請求シタルト  
キハ前項ノ時効ハ之ヲ以テ其債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

### 第二章 合資會社

第九十九條 合資會社ハ有限責任社員ト無限責任社員トヲ以テ之ヲ組織ス

第一百條 合資會社ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外合名會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第一百一條 合資會社ノ定款ニハ第四十八條ニ掲ケタル事項ノ外各社員ノ責任ノ有限又ハ無限  
ナルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第一百二條 合資會社ハ定款ヲ作リタル日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ第四十  
九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外各社員ノ責任ノ有限又ハ無限ナルコトヲ登記スルコトヲ要ス

第一百三條 有限責任社員ハ金錢其他ノ財産ノミヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第一百四條 各無限責任社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ

務ヲ負フ

無限責任社員數人アルトキハ會社ノ業務執行ハ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二百五條 支配人ノ選任及ヒ解任ハ無限責任社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二百六條 有限責任社員ハ會社ノ財産目錄及ヒ貸借對照表ノ閱覽ヲ求メ且其當否ヲ調査スル

爲メ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ有限責任社員ノ請求ニ因リ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀

況ノ検査ヲ許スコトヲ得

第二百七條 有限責任社員ハ無限責任社員ノ承諾アルトキハ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓

渡スコトヲ得

第二百八條 有限責任社員ハ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行為ヲ爲シ

又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得

第二百九條 定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ヲ定メザルトキ

ハ各無限責任社員會社ヲ代表ス

第三百十條 有限責任社員ハ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルコトヲ得ス

第三百十一條 有限責任社員ト雖モ之ヲ無限責任社員ナリト信スヘキ正當ノ理由アルトキハ善

意ノ第三者ニ對シテ無限責任社員ト同一ノ責任ヲ負フ

第三百十二條 有限責任社員カ死亡シタルトキハ其相續人之ニ代ハリテ社員ト爲ル

有限責任社員ハ禁治産ノ宣告ヲ受ケルモ之ニ因リテ退社セズ

第三百十三條 合資會社ハ無限責任社員又ハ有限責任社員ノ全員カ退社シタルトキハ解散ス但

有限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於テ無限責任社員ノ一致ヲ以テ合名會社トシテ會

社ヲ繼續スルコトヲ妨ケズ

前項但書ノ場合ニ於テハ一週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合資會社ニ付テハ解散ノ

登記ヲ爲シ合名會社ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

### 第四章 株式會社

#### 第一節 設立

第三百十四條 株式會社ノ設立ニハ七人以上ノ發起人アルコトヲ要ス

第三百十五條 發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

一 目的

二 商號

三 資本ノ總額

商法 會社 株式會社 設立

- 四 一株ノ金額
  - 五 取締役カ有スヘキ株式ノ數
  - 六 本店及支店ノ所在地
  - 七 會社カ公告ヲ爲ス方法
  - 八 發起人ノ氏名、住所
- 第一百十六條 前條第五號乃至第七號ニ掲ケタル事項ヲ定款ニ記載セザリントキハ創立總會又ハ株主總會ニ於テ之ヲ補足スルコトヲ得
- 前項ノ株主總會ノ決議ハ第九十六條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス
- 第一百七十七條 左ニ掲ケタル事項ヲ定メタルトキハ之ヲ定款ニ記載スルコトヲ要ス
- 一 存立時期
  - 二 株式ノ額面以上ノ發行
  - 三 發起人カ受クヘキ特別ノ利益及ヒ之ヲ受クヘキ者ノ氏名
  - 四 金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者ノ氏名、其財産ノ種類、價格及ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ數
  - 五 會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用及ヒ發起人カ受クヘキ報酬ノ額

第一百十八條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ會社ハ之ニ因リテ成立ス此場合ニ於テハ發起人ハ遲滞ナク株金ノ四分ノ一ヲ下ラサル第一回ノ拂込ヲ爲シ且取締役及ヒ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス此選任ハ發起人ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第一百十九條 取締役ハ其選任後遲滞ナク第九十七條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項及ヒ第一回ノ拂込ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査セシムル爲メ検査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

裁判所ハ検査役ノ報告ヲ聽キ第二百二十九條ノ規定ニ準據シテ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサルトキハ株主ヲ募集スルコトヲ要ス

第二十一條 株式申込人ハ株式申込證ニ其引受クヘキ株式ノ數ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス

株式申込證ハ發起人之ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 定款作成ノ年月日
- 二 第一百五條及ヒ第一百七條ニ掲ケタル事項
- 三 各發起人カ引受ケタル株式ノ數
- 四 株式發行ノ價額

五 第一回拂込ノ金額

第二百二十二條 株式發行ノ價額ハ券面額ヲ下ルコトヲ得ス

第一回拂込ノ金額ハ株金ノ四分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第二百二十三條 株式總數ノ引受アリタルトキハ發起人ハ各株ニ付キ第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額面ヲ超ユル金額ハ第一回ノ拂込ト同時ニ之ヲ拂込マシムルコトヲ要ス

第二百二十四條 株式引受人カ前條ノ拂込ヲ爲ササルトキハ發起人ハ一定ノ期間内ニ之ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フコトアルヘキ旨ヲ其株式引受人ニ通知スルコトヲ得但し其期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ス

發起人カ前項ノ通知ヲ爲サタルモ株式引受人カ拂込ヲ爲ササルトキハ發起人ハ其者カ引受ケタル株式ニ付キ更ニ株主ヲ募集スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ株式引受人ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第二百二十五條 各株ニ付キ第二百二十三條ノ拂込アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スルコトヲ要ス

創立總會ニハ株式引受人ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ヲ引受ケタル者出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス

第二百四十七條 第一項、第二項及ヒ第五百五十二條乃至第五百五十四條ノ規定ハ創立總會ニ之ヲ準用ス

第二百二十六條 創立總會ニ於テハ取締役及ヒ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス

第二百二十七條 取締役及ヒ監査役ノ選任アリタルトキハ發起人ハ之ニ會社ノ創立ニ關スル事項ヲ報告スルコトヲ要ス

第二百二十八條 取締役及ヒ監査役ハ左ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

一 株式總數ノ引受アリタルヤ否ヤ

二 各株ニ付キ第二百二十三條ノ拂込アリタルヤ否ヤ

三 第二百十七條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項ノ正當ナルヤ否ヤ

取締役又ハ監査役中發起人ヨリ選任セラレタル者アルトキハ創立總會ハ特ニ検査役ヲ選任シ其者ニ代ハリテ前項ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十九條 創立總會ニ於テ第二百十七條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項ヲ不當ト認メタ

ルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

創立總會ニ於テ引受ナキ株式又ハ第二百二十三條ノ拂込ノ未済ナル株式アルコトヲ發見シタルトキハ發起人ハ連帶シテ其株式ヲ引受ケ又ハ其拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

前二項ノ規定ハ發起人ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第三百十條 創立總會ニ於テハ定款ノ變更又ハ設立ノ廢止ノ決議ヲ爲スコトヲ得

第三百十一條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサリシトキハ會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス

第三百十二條 株式總數ノ引受アリタル後一年內ニ第二百二十三條ノ拂込カ終ハラサルトキ又ハ其拂込カ終ハラタル後六個月內ニ發起人カ創立總會ヲ招集セサルトキハ株式引受人ハ其引受ヲ取消シ拂込ミタル金額ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第三百十三條 會社ハ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ第十九條ニ定メタル調査終了ノ日ヨリ又發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサリシトキハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間內ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

- 一 第一百十五條第一號乃至第四號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項
- 二 本店及ヒ支店

三 設立ノ年月日

四 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

五 各株ニ付キ拂込ミタル金額

六 開業前ニ利息ヲ配當スヘキコトヲ定メタルトキハ其旨及ヒ利率

七 取締役及ヒ監査役ノ氏名、住所

第四十九條第二項、第五十條及ヒ第五十一條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第二節 株式

第三百十四條 株式會社ノ資本ハ之ヲ株式ニ分ツコトヲ要ス

株主ノ責任ハ其引受ケ又ハ讓受ケタル株式ノ金額ヲ限度トス

第三百十五條 株式ノ金額ハ均一ナルコトヲ要ス

株式ノ金額ハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス但設立ノ際株金ノ全額ヲ拂込ムヘキ場合ニ限り之ヲ二十圓ト爲スコトヲ得

第三百十六條 株式ハ之ヲ分割スルコトヲ得ス

第三百十七條 株式カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ共有者ハ株主ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

共有者ハ會社ニ對シ連帶シテ株金ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第三百二十八條 株券ハ第三百三十三條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ反シテ發行シタル株券ハ之ヲ無効トス

前二項ノ規定ハ株券ヲ發行シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第三百二十九條 株券ニハ左ノ事項及ヒ番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス

一 會社ノ商號

二 第三百三十三條第一項ニ定メタル登記ノ年月日

三 資本ノ總額

四 一株ノ金額

五 取締役ノ氏名

設立ノ際株金ノ全額ヲ拂込マシメサル場合ニ於テハ拂込アル毎ニ其金額ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス

第四百十條 株式ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ承諾ナクシテ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得但第三百三十三條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ之ヲ讓渡スル

トヲ得ス

第四百十一條 記名株式ノ讓渡ハ讓受人ノ氏名、住所ヲ本店又ハ支店ノ株主名簿ニ記載シ且其氏名ヲ株券ニ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百十二條 會社ハ自己ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス

株式ハ資本減少ノ規定ニ從フニ非サレハ之ヲ消却スルコトヲ得ス但定款ノ定ムル所ニ從ヒ株主ニ配當スヘキ利益ヲ以テスルハ此限ニ在ラス

第四百十三條 株金ノ拂込ハ少クトモ二週間前ニ之ヲ各株主ニ催告スルコトヲ要ス

株主カ期日ニ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ更ニ一定ノ期間内ニ之ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ拂込ヲ爲ササルトキハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ其株主ニ通知スルコトヲ得但其期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ス

第四百十四條 會社カ前條ニ定メタル手續ヲ踐ミタルモ株主カ拂込ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テハ會社ハ株式ノ各讓渡人ニ對シ二週間ヲ下ラサル期間内ニ拂込ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ最モ先ニ滯納金額ノ拂込ヲ爲シタル讓渡人株式ヲ取得ス



譲渡人ヲ拂込テ爲ササルトキハ會社ハ株式ヲ競買スルコトヲ要ス若シ競買ニ依リテ得タル金額カ滞納金額ニ滿タサルトキハ從前ノ株主ハ其不足額ヲ辨済スル責ニ任ス但從前ノ株主カ二週間内ニ之ヲ辨済セサルトキハ會社ハ各譲渡人ニ對シテ其辨済ヲ請求スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ會社カ損害賠償及ヒ定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ妨ケス  
第百四十五條 前條ニ定メタル譲渡人ノ責任ハ譲渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後五年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第百四十六條 株金全額ノ拂込アリタルトキハ株主ハ其株券ヲ無記名式ト爲スコトヲ請求スルコトヲ得

株主ハ何時ニテモ其無記名株ヲ記名式ト爲スコトヲ請求スルコトヲ得

### 第三節 會社ノ機關

#### 第一款 株主總會

第百四十七條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ二週間前ニ各株主ニ其通知ヲ發スルコトヲ要ス  
前項ノ通知ニハ總會ノ目的及ヒ總會ニ於テ決議スヘキ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

會社カ無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ會日ヨリ三週間前ニ總會ヲ開クヘキ旨及ヒ前項ニ掲ケタル事項ヲ公告スルコトヲ要ス

第百四十八條 通常總會ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ取締役之ヲ召集スルコトヲ要ス

年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ毎配當期ニ總會ヲ召集スルコトヲ要ス

第百四十九條 通常總會ハ取締役カ提出シタル書類及ヒ監査役ノ意見書ヲ調査シ且利益又ハ利息ノ配當ヲ決議ス

前項ニ掲ケタル書類ノ當否ヲ調査セシムル爲メ總會ハ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得

第百五十條 臨時總會ハ必要アル毎ニ取締役之ヲ召集ス

第百五十一條 資本ノ五分ノ一以上ニ當タル株主ハ會議ノ目的及ヒ其理由ヲ記載シタル書面

ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

取締役カ前項ノ請求アリタル後二週間内ニ總會召集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其請求ヲ爲シタル株主ハ裁判所ノ許可ヲ得テ其召集ヲ爲スコトヲ得

第百五十二條 總會ノ決議ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

無記名式ノ株券ヲ有スル者ハ會日ヨリ五日前ニ其株券ヲ會社ニ供託スルコトヲ非サレハ其議決權ヲ行フコトヲ得ス

株主ハ代理人ヲ以テ其議決權ヲ行フコトヲ得但其代理人ハ委任狀ヲ會社ニ差出スコトヲ要ス

總會ノ決議ニ付キ特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其議決權ヲ行フコトヲ得

第五十三條 各株主ハ一株ニ付キ一個ノ議決權ヲ有ス但十一株以上ヲ有スル株主ノ議決權ハ定款ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得

第五十四條 總會ノ決議カ法令又ハ定款ニ違背スルトキハ裁判所ハ取締役、監査役又ハ株主ノ請求ニ因リ其決議ノ無效ヲ宣告スルコトヲ得

前項ノ請求ハ決議ノ日ヨリ一个月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

取締役又ハ監査役ニ非サル株主カ第一項ノ請求ヲ爲シタルトキハ其株券ヲ供託シ且會社ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第二款 取締役

第五十五條 取締役ハ株主總會ニ於テ株主中ヨリ之ヲ選任ス

第五十六條 取締役ハ三人以上タルコトヲ要ス

第五十七條 取締役ノ任期ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス但其任期滿了ノ後之ヲ再選スルコトヲ妨ケス

第五十八條 取締役ハ何時ニテモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得但任期ノ定アル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其任期前ニ之ヲ解任シタルトキハ其取締役ハ會社ニ對

シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第五十九條 取締役ハ就任ノ際定款ニ定メタル員數ノ株券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス

第六十條 會社ノ業務執行ハ取締役ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス支配人ノ選任及ヒ解任亦同シ

第六十一條 取締役ハ各自會社ヲ代表ス

第六十條ノ規定ハ取締役ニ之ヲ準用ス

第六十二條 取締役ハ定款、株主名簿及ヒ創立總會並ニ株主總會ノ決議錄ヲ本店及ヒ支店

ニ備ヘ置クコトヲ要ス

株主ハ何時ニテモ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得

第六十三條 株主名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 各株主ノ氏名、住所
- 二 各株主ノ株式ノ數及ヒ株券ノ番號
- 三 各株式ニ付キ拂込ミタル金額及ヒ拂込ノ年月日
- 四 各株式ノ取得ノ年月日
- 五 無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其數、番號及ヒ發行ノ年月日

株主名簿ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク本店及ヒ支店ニ於テ之ヲ記載

ナルコトヲ要ス

第六十四條 會社カ其資本ノ半額ヲ失ヒタルトキハ取締役ハ遲滯ナシ株主總會ヲ招集シテ之ヲ報告スルコトヲ要ス

會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ取締役ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第六十五條 取締役ハ株主總會ノ認許アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

第三十條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十六條 取締役ハ監査役ノ承認ヲ得ルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得ス

第六十七條 取締役カ法令又ハ定款ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ株主總會ノ決議ニ依リタル場合ト雖モ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ其行爲ニ對シ株主總會ニ於テ異議ヲ述ヘ且監査役ニ其旨ヲ通知シタル取締役ニハ之ヲ適用セズ

第六十八條 株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シ又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ之ヲ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一個月

内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス  
前項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ監査役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

會社カ敗訴シタルトキハ右ノ株主ハ會社ニ對シテノ損害賠償ノ責ニ任ス

第六十九條 取締役カ受クヘキ報酬ハ定款ニ其額ヲ定メザリシトキハ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第三款 監査役

第七十條 監査役ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス

第七十一條 監査役ハ何時ニテモ取締役ニ對シテ事業ノ報告ヲ求メ又ハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

監査役ハ株主總會ヲ招集スル必要アリト認メタルトキハ其招集ヲ爲スコトヲ得此總會ニ於テハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得

第七十二條 監査役ハ取締役カ株主總會ニ提出スヘキ書類ヲ調査シ株主總會ニ其意見ヲ報告スルコトヲ要ス

第七十三條 監査役ハ取締役又ハ支配人ヲ兼スルコトヲ得ス但取締役中ニ缺員アルトキハ取締役及ヒ監査役ノ協議ヲ以テ監査役中ヨリ一時取締役ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ取締役ノ職務ヲ行フ監査役ハ第八十一條第一項ノ規定ニ從ヒ株主總會ノ承認ヲ得ルマテハ監査役ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

第七十四條 會社カ取締役ニ對シ又ハ取締役カ會社ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ於テハ其訴ニ付テハ監査役之ヲ代表ス但株主總會ハ他人ヲシテ之ヲ代表セシムルコトヲ得

資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ請求シタルトキハ特ニ代表者ヲ指定スルコトヲ得

第七十五條 監査役カ其任務ヲ怠リタルトキハ會社及ヒ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第七十六條 株主總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シ又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ之ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第七十四條第一項但書及ヒ第二項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ取締役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス會社カ敗訴シタルトキハ右ノ株主ハ會社ニ對シテノ損害賠償ノ責ニ任ス

第七十七條 監査役ハ其破産又ハ禁治産ニ因リテ退任ス

第七十八條 第五十七條、第五十八條及ヒ第六十九條ノ規定ハ監査役ニ之ヲ準用ス

第四節 會社ノ計算

第七十九條 取締役ハ通常總會ノ會日ヨリ二週間前ニ左ノ書類ヲ監査役ニ提出スルコトヲ要ス

一 財産目錄

二 貸借對照表

三 事業報告書

四 損益計算書

五 準備金及ヒ利益又ハ利息ノ配當ニ關スル議案

第八十條 取締役ハ通常總會ノ會日前ニ前條ニ掲ケタル書類及ヒ監査役ノ意見書ヲ本店及ヒ支店ニ備フルコトヲ要ス

株主及ヒ會社ノ債權者ハ何時ニテモ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得

第八十一條 取締役ハ監査役ノ意見書ト共ニ第七十九條ニ掲ケタル書類ヲ通常總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス

取締役ハ前項ノ承認ヲ得タル後貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第八十二條 通常總會ニ於テ前條ノ承認ヲ爲シタルトキハ會社ハ取締役及ヒ監査役ニ對シ其責任ヲ解除シタルモノト看做ス但取締役又ハ監査役ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條 會社ハ損失ノ填補ニ備フル爲メ其資本ノ四分ノ一ニ達スルマテハ利益ヲ配當スル毎ニ其利益ノ二十分ノ一以上ヲ準備金トシテ積立ツルコトヲ要ス

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額面ヲ超ユル金額ハ前項ノ額ニ達スルマテ之ヲ準備金ニ組入ルルコトヲ要ス

第八十四條 會社ハ損失ヲ填補シ且前條第一項ニ定メタル準備金ヲ控除シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ反シテ爲シタル配當ハ會社ノ債權者之ヲ返還セシムルコトヲ得  
第八十五條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ第三百三十三條第一項ニ定メタル登記ヲ爲シタル後二年以上開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ開業ヲ爲ス

ニ至ルマテ一定ノ利息ヲ株主ニ配當スヘキコトヲ定ムルコトヲ得

前項ニ掲ケタル定款ノ規定ハ其登記前ニ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第八十六條 利益又ハ利息ノ配當ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應シテ之ヲ爲ス但會社カ優先株式ヲ發行シタル場合ニ於テ之ニ異ナリタル定アルトキハ此限ニ在ラス

第八十七條 裁判所ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ノ請求ニ因リ會社ノ業務及ヒ會社ノ財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ検査役ヲ選任スルコトヲ得

検査役ハ其調査ノ結果ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要ス此場合ニ於テ裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ監査役ヲシテ株主總會ヲ招集セシムルコトヲ得

第五節 社債

第八十八條 社債ハ第九十六條ニ定メタル決議ニ依ルコト非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得

第八十九條 社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ヲ超ユルコトヲ得ス  
最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産カ前項ノ金額ニ滿タサルトキハ社債ノ總額ハ其財産ノ額ヲ超ユルコト得ス

第九十條 社債權者ニ償還スヘキ金額カ券面額ヲ超ユヘキコトヲ定メタルトキハ其金額

ハ各債券ニ付キ同一ナルコトヲ要ス

第九十一條 社債ヲ募集セントスルトキハ取締役ハ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

- 一 會社ノ商號
- 二 社債ノ總額
- 三 債券ノ總數及ヒ其金額
- 四 社債ノ利率
- 五 社債償還ノ方法及ヒ期限
- 六 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其償還了ラヘサル總額
- 七 債券發行ノ價額又ハ其最低價額
- 八 會社ノ資本及ヒ拂込ミタル株金ノ總額
- 九 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額

第九十二條 社債ノ募集カ完了シタルトキハ取締役ハ各債券ニ付キ其全額ヲ拂込マシムルコトヲ要ス

取締役ハ前項ノ規定ニ從ヒ全額ノ拂込ヲ受ケタル日ヨリ一週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ前條第二號乃至第五號ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第九十三條 債券ニハ第九十一條第一號乃至第五號ニ掲ケタル事項及ヒ番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス

第九十四條 記名社債ノ讓渡ハ讓受人ノ氏名、住所ヲ社債原簿ニ記載シ且其氏名ヲ債券ニ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六節 定款ノ變更

第九十五條 定款ハ株主總會ノ決議ニ依リテノミ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九十六條 定款ノ變更ハ總株主ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當タル株主出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

前項ニ定メタル員數ノ株主カ出席セザルトキハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其假決議ノ趣旨ヲ株主ニ通知シ且無記名式ノ株券ヲ有スル者ニ對シテハ之ヲ公告シテ更ニ一个月ヲ下ラサル期間内ニ第二回ノ株主總會ヲ招集スルコトヲ要ス

第二回ノ株主總會ニ於テハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決ス前二項ノ規定ハ會社ノ目的タル事業ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セス

第九十七條 會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ定款ノ變更カ優先株主ニ損害ヲ及ボス

～キトキハ株主總會ノ決議ノ外優先株主ノ總會ノ決議アルコトヲ要ス  
優先株主ノ總會ニハ株主總會ニ關スル規定ヲ準用ス

第九十八條 會社ノ資本ハ株金全額拂込ノ後ニ非サレハ之ヲ増加スルコトヲ得ス  
會社ハ其資本ヲ増加スル場合ニ限リ優先株ヲ發行スルコトヲ得

第九十九條 新株總數ノ引受アリタルトキハ取締役ハ各新株ニ付キ第一回ノ拂込ヲ爲サレ  
ムルコトヲ要ス

額面以上ノ價額ヲ以テ新株ヲ發行シタルトキ其額面ヲ超ユル金額ハ株金ノ拂込ト同一ノ割  
合ヲ以テ之ヲ拂込マシムルコトヲ要ス

第二百條 各新株ニ付キ前條ノ拂込アリタルトキハ取締役ハ遲滯ナク株主總會ヲ召集スルコ  
トヲ要ス

第二百一條 監査役ハ左ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ株主總會ニ報告スルコトヲ要ス

一 新株總數ノ引受アリタルヤ否ヤ

二 各新株ニ付キ第九十九條ノ拂込アリタルヤ否ヤ

三 金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル者アルトキハ其財産ニ對シテ與フル株  
式ノ數ノ正當ナルヤ否ヤ

前項ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムル爲メ株主總會ハ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得

第二百二條 株主總會ニ於テ金錢以外ノ財産ニ對シテ與フル株式ノ數ヲ不當ト認メタルトキ  
ハ之ヲ減少スルコト得

株主總會ニ於テ引受ナキ株式又ハ第九十九條ノ拂込ノ未済ナル株式アルコトヲ發見シタ  
ルトキハ取締役ハ連帶シテ其株式ヲ引受ク又ハ其拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第二百三條 會社ハ前三條ニ定メタル株主總會終結ノ日ヨリ一週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在  
地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 増加シタル資本ノ總額

二 資本増加ノ決議ノ年月日

三 各新株ニ付キ拂込ミタル金額

四 優先株ヲ發行シタルトキハ其株主ノ權利

本店ノ所在地ニ於テ前項ノ登記ヲ爲スマテハ新株券ノ發行及ヒ新株ノ讓渡ヲ爲スコトヲ得  
ス

第二百四條 新株ヲ發行シタルトキハ前條第一項ニ定メタル登記ノ年月日ヲ株券ニ記載スル  
コトヲ要ス

額而以上ノ價額ヲ以テ新株ヲ發行シタルトキハ其發行ノ價額及ヒ拂込ミタル金額ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス

優先株ヲ發行シタルトキハ其株主ノ權利ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス

第二百五條 第二百二十二條、第二百二十四條、第三百二十二條及ヒ第三百二十八條第二項、第三項ノ規定ハ新株發行ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百六條 株主總會ニ於テ資本減少ノ決議ヲ爲ストキハ同時ニ其減少ノ方法ヲ決議スルコトヲ要ス

第七十五條乃至第七十七條ノ規定ハ資本減少ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七節 解散

第二百七條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 第七十一條第一號、第二號、第四號、第六號及ヒ第七號ニ掲ケタル事由

二 株主總會ノ決議

三 株主カ七人以下ニ減シタルコト

第二百八條 前條第二號及ヒ合併ノ決議ハ第九十六條ノ規定ニ從フニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百九條 會社カ合併ヲ爲サント欲スルトキハ其旨ヲ公告シテ株主總會ノ開會前一个月ヲ

超エサル期間及ヒ開會中株式ノ讓渡ヲ停止スルコトヲ得

株主總會ニ於テ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其決議ノ日ヨリ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ

第七十八條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スマテハ株主ハ其株式ヲ讓渡スコトヲ得ス

第二百十條 會社カ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外取締役ハ遲滞ナク之ヲ株主ニ通知

シ且無記名式ノ株券ヲ有スル者ニ對シテハ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百十一條 第七十三條及ヒ第七十五條乃至第七十九條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第八節 清算

第二百十二條 會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外取締役其清算人ト爲ル

但定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ株主總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第二百十三條 會社カ事業ニ著手シタル後其設立ノ無効ナルコトヲ發見シタルトキハ解散ノ

場合ニ準シテ清算ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第二百十四條 清算人ハ就職ノ後遲滞ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目録及ヒ貸借對照表



ヲ作リ監査役ノ意見書ト共ニ之ヲ株主總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス  
第四百九條第二項及ヒ第八十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百十五條 株主總會ニ於テ選任シタル清算人ハ何時モ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ監査役又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第二百十六條 清算人ハ會社ノ債務ヲ辨濟シタル後ニ非サレハ會社財産ヲ株主ニ分配スルコトヲ得ス

第二百十七條 殘餘財産ハ各株主カ拂込ミタル株金額ニ應ジテ之ヲ分配スルコトヲ要ス但會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ之ニ異ナリタル定アルトキハ此限ニ在ラス

第二百十八條 清算事務カ終ハリタルトキハ清算人ハ遲滯ナク決算報告書ヲ作り監査役ノ意見書ト共ニ之ヲ株主總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第二百十九條 會社ノ帳簿、其營業ニ關スル信書及ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ清算終了ノ登記後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其保存者ハ清算人其他ノ利害關係人ノ請求ニ因リ裁

判所之ヲ選任ス

第二百二十條 第八十一條、第八十五條、第八十七條乃至第九十一條、第九十四條、第九十六條、第九十八條、第九十九條、第一百零一條、第一百零四條、第一百零七條、第一百零八條及ヒ民法第七十九條及ヒ第八十條ノ規定ハ株式會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五章 株式合資會社

第二百二十一條 株式合資會社ハ無限責任社員ト株主トヲ以テ之ヲ組織ス

第二百二十二條 左ノ事項ニ付テハ合資會社ニ關スル規定ヲ準用ス

- 一 無限責任社員相互間ノ關係
- 二 無限責任社員ト株主及ヒ第三者トノ關係
- 三 無限責任社員ノ退社

此他株式合資會社ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外株式會社ニ關スル規定ヲ準用ス  
第二百二十三條 無限責任社員ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

- 一 第一百十五條第一號乃至第四號、第六號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項
- 二 無限責任社員ノ氏名、住所
- 三 無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ種類及ヒ價格又ハ評價ノ標準

第二百二十四條 無限責任社員ハ株主ヲ募集スルコトヲ要ス  
株式申込證ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 第一百七十七條、第二百一十一條第二項第一號、第四號、第五號及ヒ前條ニ掲ケタル事項

二 無限責任社員カ株式ヲ引受ケタルトキハ其各自カ引受ケタル株式ノ數

第二百二十五條 創立總會ニ於テハ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス  
無限責任社員ハ監査役ト爲ルコトヲ得ス

第二百二十六條 無限責任社員ハ創立總會ニ出席シテ其意見ヲ述フルコトヲ得但株式ヲ引受  
ケタルトキト雖モ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

無限責任社員カ引受ケタル株式其他ノ出資ハ議決權ニ關シテハ之ヲ算入セス

前二項ノ規定ハ株主總會ニ之ヲ準用ス

第二百二十七條 監査役ハ第二百二十八條第一項ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告  
スルコトヲ要ス

第二百二十八條 會社ハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左  
ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 第三百三十三條第一項第一號乃至第六號ニ掲ケタル事項

二 無限責任社員ノ氏名、住所

三 無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ種類及ヒ財産ヲ目的トスル出資ノ價格

四 會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ヲ定メタルトキハ其氏名

五 監査役ノ氏名、住所

第二百二十九條 會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ニハ株式會社ノ取締役ニ關スル規定ヲ準用  
ス但第五百五十五條乃至第五百五十九條、第六十五條及ヒ第六十九條ノ規定ハ此限ニ在ラ  
ズ

第二百三十條 合資會社ニ於テ總社員ノ同意ヲ要スル事項ニ付テハ株主總會ノ決議ノ外無限  
責任社員ノ一致アルコトヲ要ス

第九十六條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第二百三十一條 監査役ハ無限責任社員ヲシテ株主總會ノ決議ヲ執行セシムル責ニ任ス

第二百三十二條 株式合資會社ハ合資會社ト同一ノ事由ニ因リテ解散ス但第八十條ノ場合ハ  
此限ニ在ラス

第二百三十三條 無限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於テ株主ハ第九十六條ニ定メ  
ル決議ニ依リ株式會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ得此場合ニ於テハ株式會社ノ組織ニ必

要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス

第二百三十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十四條 會社カ解散シタルトキハ合併、破産又ハ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタル場合ヲ除ク外清算ハ無限責任社員ノ全員若クハ其相續人又ハ選任シタル者及ヒ株主總會ニ於テ選任シタル者之ヲ爲ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

無限責任社員カ清算人ヲ選任スルトキハ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第二百三十五條 無限責任社員ハ何時ニテモ其選任シタル清算人ヲ解任スルコトヲ得此場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二百三十六條 清算人ハ第二百十四條及ヒ第二百十八條ニ定メタル計算ニ付キ無限責任社員全員ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第二百三十七條 株式合資會社ハ無限責任社員ノ一致及ヒ株主總會ノ決議ニ依リ其組織ヲ變更シテ株式會社ト爲スコトヲ得

第二百九十六條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第二百三十八條 前條ノ場合ニ於テハ株主總會ハ直チニ株式會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス此總會ニ於テハ無限責任社員モ亦其引受クヘキ株式ノ數ニ應シテ議決ノ

數ニ加ハルコトヲ得

第二百三十九條 第七十五條及ヒ第七十六條第一項、第二項ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十條 會社ハ組織變更ニ付キ債權者ノ承認ヲ得又ハ第七十六條第二項ニ定メタル義務ヲ履行シタル後一週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ株式合資會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ株式會社ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

### 第六章 外國會社

第二百四十一條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタルトキハ日本ニ成立スル同種ノモノ又ハ最モ之ニ類似セルモノト同一ノ登記及ヒ公告ヲ爲スコトヲ要ス

右ノ外日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ハ其日本ニ於ケル代表者ヲ定メ且支店設立ノ登記ト同時ニ其氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第二百四十二條 前條ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項カ外國ニ於テ生シタルトキハ登記ノ期間ハ其通知ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

外國會社カ始メテ日本ニ支店ヲ設ケタルトキハ其支店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ他人ハ其會社ノ成立ヲ否認スルコトヲ得

第二百四十三條 日本ニ本店ヲ設ケ又ハ日本ニ於テ商業ヲ營ムヲ以テ主タル目的トスル會社ハ外國ニ於テ設立スルモノト雖モ日本ニ於テ設立スル會社ト同一ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第二百四十四條 第三百三十八條、第四百十條、第四百十一條、第四百十六條第一項、第九十四條及ヒ第二百三條第二項ノ規定ハ日本ニ於テスル外國會社ノ株式ノ發行及ヒ其株式若クハ社債ノ讓渡ニ之ヲ準用ス

第二百四十五條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其代表者カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其支店ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得

第七章 罰則

第二百四十六條 發起人、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル

- 一 本編ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 二 本編ニ定メタル公告若クハ通知ヲ怠リ又ハ不正ノ公告若クハ通知ヲ爲シタルトキ
- 三 本編ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ理由ナクシテ閱覽セシメサリシトキ

四 本編ノ規定ニ依ル調査ヲ妨ケタルトキ

五 第四十四條ノ規定ニ違反シテ開業ノ準備ニ著手シタルトキ

六 第二百一十一條第二項及ヒ第二百二十四條第二項ノ規定ニ反シ株式申込證ヲ作ラヌ、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

七 第三百三十八條又ハ第二百三條第二項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ發行シタルトキ

八 株券又ハ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

九 定款、株主名簿、社債原簿、創立總會並ニ株主總會ノ決議録、財産目錄、貸借對照表、事業報告書、損益計算書及ヒ準備金並ニ利益又ハ利息ノ配當ニ關スル議案ヲ本店若クハ支店ニ備ヘ置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

十 第六十四條第一項ノ規定ニ反シテ株主總會ヲ招集セザルトキ

第二百四十七條 發起人、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

- 一 官廳又ハ創立總會若クハ株主總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
- 二 第七十五條乃至第七十七條ノ規定ニ違反シテ合併、資本ノ減少又ハ組織ノ變更ヲ爲

シタルトキ

- 三 検査役ノ調査ヲ妨ケタルトキ
- 四 第四百二十二條第一項ノ規定ニ反シ株式ヲ取得シ若クハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケ又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シテ之ヲ消却シタルトキ
- 五 第四百四十六條第一項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ無記名式ト爲シタルトキ
- 六 第六百四十四條第二項又ハ民法第八十一條ノ規定ニ反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 七 第八百八十三條ノ規定ニ反シ準備金ヲ積立テヌ又ハ第八百八十四條若クハ第八百八十五條ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキ
- 八 第八百八十九條ノ規定ニ違反シテ社債ヲ募集シタルトキ
- 九 民法第七十九條ノ期間内ニ或債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ第二百十六條ノ規定ニ違反シテ會社財産ヲ株主ニ分配シタルトキ
- 十 第二百四十五條ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ

### 第三編 商行為

#### 第一章 總則

一百四十八條 左ニ掲ケタル行為ハ之ヲ商行為トス

- 一 利益ヲ得テ讓渡ス意思ヲ以テスル動産、不動産若クハ有價證券ノ有價取得又ハ其取得シタルモノノ讓渡ヲ目的トスル行為
  - 二 他人ヨリ取得スヘキ動産又ハ有價證券ノ供給契約及ヒ其履行ノ爲メニスル有價取得ヲ目的トスル行為
  - 三 取引所ニ於テスル取引
  - 四 手形其他ノ商業證券ニ關スル行為
- 第二百四十九條 左ニ掲ケタル行為ハ營業トシテ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行為トス
- 一 貸貸スル意思ヲ以テスル動産若クハ不動産ノ有價取得若クハ貸借又ハ其取得若クハ貸借シタルモノノ貸貸ヲ目的トスル行為
  - 二 他人ノ爲メニスル製造又ハ加工ニ關スル行為
  - 三 電氣又ハ瓦斯ノ供給ニ關スル行為
  - 四 運送ニ關スル行為

商法 商行為 總則

- 五 作業又ハ勞務ノ請負
  - 六 出版、印刷又ハ寫眞ニ關スル行爲
  - 七 客ノ來集ヲ目的トスル娯屋ニ關スル取引
  - 八 貸金、兩替其他ノ銀行取引
  - 九 保險
  - 十 寄託ノ引受
  - 十一 仲立又ハ取次ニ關スル行爲
  - 十二 商行爲ノ代理ノ引受
- 前項ノ規定ハ專ラ賃金ヲ得ル目的ヲ以テ物ヲ製造シ又ハ勞務ニ服スル者ニハ之ヲ適用セ  
ス
- 第二百五十條 商人カ其營業ノ爲メニスル行爲ハ之ヲ商行爲トス  
商人ノ行爲ハ其營業ノ爲メニスルモノト推定ス
- 第二百五十一條 商行爲ノ代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示サザルトキト雖モ其行爲ハ本  
人ニ對シテ其效力ヲ生ス但相手方カ本人ノ爲メニスルコトヲ知ラザリシトキハ代理人ニ對  
シテ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

- 第二百五十二條 商行爲ノ受任者ハ委任者カ承諾スヘキモノト認ムヘキ場合ニ限り委任ヲ受  
ケサル行爲ヲ爲スコトヲ得
- 第二百五十三條 委任ニ因ル代理權ハ商行爲ニ付テハ本人ノ死亡ニ因リテ消滅セス
- 第二百五十四條 對話者間ニ於テ契約ノ申込ヲ受ケタル者カ直チニ承諾ヲ爲サザルトキハ申  
込ハ其效力ヲ失フ
- 第二百五十五條 隔地者間ニ於テ承諾期間ノ定ナシテ契約ノ申込ヲ受ケタル者カ相當ノ期  
間内ニ承諾ノ通知ヲ發セザルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ
- 民法第五百二十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第二百五十六條 商人カ平常取引ヲ爲ス者ヨリ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタル  
トキハ遲滞ナク諾否ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス若シ之ヲ發スルコトヲ怠リタルトキハ申込  
ヲ承諾シタルモノト看做ス
- 第二百五十七條 商人カ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタル場合ニ於テ申込ト共ニ  
受取リタル物品アルトキハ其申込ヲ拒絕シタルトキト雖モ申込者ノ費用ヲ以テ其物品ヲ保  
管スルコトヲ要ス但其物品ノ價額カ其費用ヲ償フニ足ラザルトキ又ハ商人カ其保管ニ因リ  
テ損害ヲ受クヘキトキハ此限ニ在ラス

第二百五十八條 數人カ其一人又ハ全員ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ債務ヲ負擔シタルトキハ其債務ハ各自連帶シテ之ヲ負擔ス

保證人アル場合ニ於テ債務カ主タル債務者ノ商行爲ニ因リテ生シタルトキ又ハ保證カ商行爲ナルトキハ主タル債務者及ヒ保證人カ各別ノ行爲ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキト雖モ其債務ハ各自連帶シテ之ヲ負擔ス

第二百五十九條 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ或行爲ヲ爲シタルトキハ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第二百六十條 商人間ニ於テ金錢ノ消費貸借ヲ爲シタルトキハ貸主ハ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ金錢ノ立替ヲ爲シタルトキハ其立替ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

第二百六十一條 商行爲ニ關シテハ法定利率ハ年六分トス

第二百六十二條 商行爲ニ因リテ生シタル債務ノ履行ヲ爲スヘキ場所カ其行爲ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ定マラサルトキハ特定物ノ引渡ハ行爲ノ當時其物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲シ其他ノ履行ハ債權者ノ現時ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ

之ヲ爲スコトヲ要ス

指圖債權及ヒ無記名債權ノ辨濟ハ債務者ノ現時ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百六十三條 指圖債權又ハ無記名債權ノ債務者ハ其履行ニ付キ期限ノ定アルトキト雖モ其期限經過ノ後所持人カ其證券ヲ呈示シテ履行ノ請求ヲ爲シタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス

第二百六十四條 第二百六十二條第二項及ヒ前條ノ規定ハ民法第四百七十一條ニ掲ケタル債權ニ之ヲ準用ス

第二百六十五條 金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル指圖證券ノ所持人カ其證券ヲ喪失シタル場合ニ於テ公示催告ノ申立ヲ爲シタルトキハ債務者ヲシテ其債務ノ目的物ヲ供託セシメ又ハ相當ノ擔保ヲ供シ其證券ノ趣旨ニ從ヒテ履行ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百六十六條 第四百二十一條、第四百三十七條、第四百四十一條及ヒ第四百四十四條ノ規定ハ金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル指圖債權ニ之ヲ準用ス

第二百六十七條 法令又ハ慣習ニ依リ取引時間ノ定アルトキハ其取引時間内ニ限り債務ノ履行ヲ爲シ又ハ其履行ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二百六十八條 商人間ニ於テ其雙方ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ生シタル債權カ辨濟

期ニ在ルトキハ債權者ハ辨濟ヲ受クルマテ其債務者トノ間ニ於ケル商行爲ニ因リテ自己ノ占有ニ歸シタル債務者ノ所有物ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限ニ在ラス

第二百六十九條 商行爲ニ因リテ生シタル債權ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス但民法第七十條、第七十三條及ヒ第七十四條ノ適用ヲ妨ケス

### 第二章 賣買

第二百七十條 商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ賣主ハ其物ヲ供託シ又ハ相當ノ時間ヲ定メテ催告ヲ爲シタル後之ヲ競賣スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滞ナク買主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス  
續收シ易キ物ハ前項ノ催告ヲ爲サスシテ之ヲ競賣スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ賣主カ賣買ノ目的物ヲ競賣シタルトキハ其代價ヲ供託スルコトヲ要ス但其全部又ハ一部ヲ代金ニ充當スルコトヲ妨ケス

第二百七十一條 契約ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ

履行ヲ爲サスシテ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方ハ直チニ其履行ヲ請求スルコト非サレハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第二百七十二條 商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取リタルトキハ遲滞ナク之ヲ検査シ若シ其瑕疵アルコト又ハ數量ニ不足アルコトヲ發見シタルトキハ直チニ賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルコト非サレハ其瑕疵又ハ不足コト付キ異議ヲ述フルコトヲ得ス賣買ノ目的物ニ直チニ發見スルコト能ハサル瑕疵アリタル場合ニ於テ買主カ後日之ヲ發見シタルトキ亦同シ

第二百七十三條 前條ノ場合ニ於テ買主ハ異議ヲ述ヘタルトキト雖モ賣主ノ費用ヲ以テ賣買ノ目的物ヲ保管スルコトヲ要ス但其物コト付キ滅失又ハ毀損ノ虞アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ保管スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ買主カ競賣ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ賣主及ヒ買主ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所カ同市町村内ニ在ル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百七十四條 前條ノ規定ハ賣主ヨリ買主ニ引渡シタル物品カ注文シタル物品ト異ナリタ

商法 商行爲 賣買 交互計算



ル場合ニ之ヲ準用ス其物品カ注文シタル數益ヲ超過シタル場合ニ於テ其超過額ニ付キ亦同

### 第二章 交互計算

第二百七十五條 交互計算ハ商人間又ハ商人ト商人ニ非サル者トノ間ニ平常取引ヲ爲ス場合ニ於テ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生ズル債權債務ノ總額ニ付キ相殺ヲ爲シ其殘額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ズ

第二百七十六條 手形其他ノ商業證券ヨリ生シタル債權債務ヲ交互計算ニ組入レタル場合ニ於テ證券ノ債務者カ辯濟ヲ爲サザリシトキハ當事者ハ其債務ニ關スル項目ヲ交互計算ヨリ除去スルコトヲ得

第二百七十七條 當事者カ相殺ヲ爲スヘキ期間ヲ定メザリシトキハ其期間ハ之ヲ六個月トス

第二百七十八條 當事者カ債權債務ノ各項目ヲ記載シタル計算書ニ依ル殘額ノ承認ヲ爲シタルトキハ其各項目ニ付キ異議ヲ述フルコトヲ得ス但錯誤又ハ脱漏アリタルトキハ此限ニ在ラス

第二百七十九條 相殺ニ因リテ生シタル殘額ニ付テハ債權者ハ計算閉鎖ノ日以後ノ法定利息

ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ各項目ヲ交互計算ニ組入レタル日ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ妨ケス

第二百八十條 當事者ノ一方ハ何時モテモ交互計算ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ直ニ計算ヲ閉鎖シテ殘額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

### 第四章 匿名組合

第二百八十一條 匿名組合契約ハ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ營業ノ爲メニ出資ヲ爲シ其營業ヨリ生ズル損益ヲ分配スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ズ

第二百八十二條 匿名組合員ノ出資ハ營業者ノ財産ニ歸ス

匿名組合員ハ營業者ノ行爲ニ付キ第三者ニ對シテ權利義務ヲ有セス

第二百八十三條 匿名組合員カ其氏又ハ氏名ヲ商號ニ表示スルコトヲ許諾シタルトキハ其表示以後ニ生シタル債務ニ付テハ營業者ト連帶シテ其責ニ任ズ

第二百八十四條 出資カ損失ニ因リテ減シタルトキハ其填補ノ後ニ非サレハ匿名組合員ハ利益ノ配當ヲ請求スルコトヲ得ス

第二百八十五條 組合契約ヲ以テ組合ノ存続期間ヲ定メザリシトキ又ハ或當事者ノ終身間組合ノ存続スヘキコトヲ定メタルトキハ各當事者ハ事業年度ノ終ニ於テ契約ノ解除ヲ爲スコ

トヲ得但六个月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス  
組合ノ存続期間ヲ定メタルト否トヲ問ハス已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ何時  
モテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第二百八十六條 前條ニ掲ケタル場合ノ外組合契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

一 組合ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

二 營業者ノ死亡又ハ禁治産

三 營業者又ハ匿名組合員ノ破産

第二百八十七條 組合契約カ終了シタルトキハ營業者ハ匿名組合員ニ其出資ノ價額ヲ返還ス  
ルコトヲ要ス但出資カ損失ニ因リテ減シタルトキハ其殘額ヲ返還スルヲ以テ足ル

第二百八十八條 第三百條、第六條及ヒ第一百條ノ規定ハ匿名組合員ニ之ヲ準用ス

### 第五章 仲立營業

第二百八十九條 仲立人トハ他人間ノ商行爲ノ媒介ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第二百九十條 仲立人ハ其媒介シタル行爲ニ付キ當事者ノ爲メニ支拂其他ノ給付ヲ受クルコ  
トヲ得ス但別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第二百九十一條 仲立人カ其媒介スル行爲ニ付キ見本ヲ受取リタルトキハ其行爲カ完了スル

### マテ之ヲ保管スルコトヲ要ス

第二百九十二條 當事者間ニ於テ行爲カ成立シタルトキハ仲立人ハ遲滞ナク各當事者ノ氏  
名、行爲ノ年月日及ヒ其要領ヲ記載シタル書面ヲ作り署名ノ後之ヲ當事者ニ交付スルコト  
ヲ要ス

當事者カ直ニ行爲ヲ履行スヘキ場合ヲ除ク外仲立人ハ各當事者チシテ前項ノ書面ニ署名  
セシメタル後之ヲ其相手方ニ交付スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ書面ヲ受領セス又ハ之ニ署名セザルトキハ仲立人ハ遲  
滞ナク相手方ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第二百九十三條 仲立人ハ其帳簿ニ前條第一項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

當事者ハ何時モテモ仲立人カ自己ノ爲メニ媒介シタル行爲ニ付キ其帳簿ノ謄本ノ交付ヲ請  
求スルコトヲ得

第二百九十四條 當事者カ其氏名ヲ相手方ニ示ササルヘキ旨ヲ仲立人ニ命シタルトキハ仲立  
人ハ前二條ノ書面又ハ謄本ニ其氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第二百九十五條 仲立人カ當事者ノ一方ノ氏名ヲ其相手方ニ示サザリシトキハ之ニ對シテ自  
ラ履行ヲ爲ス責ニ任ス

第二百九十六條 仲立人ハ第二百九十二條ノ手續ヲ終ハリタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

仲立人ノ報酬ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス

### 第六章 問屋營業

第二百九十七條 問屋トハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ物品ノ販賣又ハ買入ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第二百九十八條 問屋ハ他人ノ爲メニ爲シタル行爲ニ因リ相手方ニ對シテ自ラ權利ヲ得義務ヲ負フ

問屋ト委託者トノ間ニ於テハ本章ノ規定ノ外委任及ヒ代理ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百九十九條 問屋ハ委託者ノ爲メニ爲シタル行爲ニ付キ相手方カ其債務ヲ履行セサル場合ニ於テ自ラ其履行ヲ爲ス責ニ任ス但別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第三百條 問屋カ委託者ノ指定シタル金額ヨリ廉價ニテ販賣ヲ爲シ又ハ高價ニテ買入ヲ爲シタル場合ニ於テ自ラ其差額ヲ負擔スルトキハ其販賣又ハ買入ハ委託者ニ對シテ其效力ヲ生ス

第三百一條 問屋カ取引所ノ相場アル物品ノ販賣又ハ買入ノ委託ヲ受ケタルトキハ自ラ賣主

又ハ賣主ト爲ルコトヲ得此場合ニ於テハ賣買ノ代價ハ問屋カ買主又ハ賣主ト爲リタルコトノ通知ヲ發シタル時ニ於ケル取引所ノ相場ニ依リテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テモ問屋ハ委託者ニ對シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第三百二條 問屋カ買入ノ委託ヲ受ケタル場合ニ於テ委託者カ買入レタル物品ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ第二百七十條ノ規定ヲ準用ス

第三百三條 第三十五條及ヒ第三十九條ノ規定ハ問屋ニ之ヲ準用ス

第三百四條 前六條ノ規定ハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ販賣又ハ買入ニ非サル行爲ヲ爲スヲ業トスル者ニ之ヲ準用ス

### 第七章 運送取扱營業

第三百五條 運送取扱人トハ自己ノ名ヲ以テ物品運送ノ取次ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

運送取扱人ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外問屋ニ關スル規定ヲ適用ス

第三百六條 運送取扱人ハ運送品ノ授受、保管、運送人又ハ他ノ運送取扱人ノ選擇其他運送ニ關スル注意ヲ怠ラサリシコトヲ證スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損、延著其他ノ損害ニ付

キ賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百七條 運送取扱人カ運送品ヲ運送人ニ引渡シタルトキハ直チニ其報酬ヲ請求スルコト

商法 商行爲 運送取扱營業

ヲ得

運送取扱契約ヲ以テ運送賃ノ額ヲ定メタルトキハ運送取扱人ハ特約アルニ非サレハ別ニ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百八條 運送取扱人ハ運送品ニ關シ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シテ立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第三百九條 數人相次テ運送ノ取次ヲ爲ス場合ニ於テハ其後者ハ前者ニ代ハリテ其權利ヲ行使スル義務ヲ負フ

前項ノ場合ニ於テ後者カ前者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ前者ノ權利ヲ取得ス

第三百十條 運送取扱人カ運送人ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ運送人ノ權利ヲ取得ス

第三百十一條 運送取扱人ハ別段ノ契約ナキトキハ自ラ運送ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ運送取扱人ハ運送人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第三百十二條 運送取扱人ノ責任ハ荷受人カ運送品ヲ受取リタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ其引渡アルヘカリシ日ヨリ之ヲ起算ス  
前二項ノ規定ハ運送取扱人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第三百十三條 運送取扱人ノ委託者又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第三百十四條 第三百二十二條及ヒ第三百二十七條ノ規定ハ運送取扱營業ニ之ヲ準用ス

### 第八章 運送營業

第三百十五條 運送人トハ陸上又ハ湖川、港灣ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲ス事業トスル者ヲ謂フ

#### 第一節 物品運送

第三百十六條 荷送人ハ運送人ノ請求ニ因リ送狀ヲ交付スルコトヲ要ス  
送狀ニハ左ノ事項ヲ記載シ荷送人之ニ署名スルコトヲ要ス

一 運送品ノ種類、重量若シハ容積、荷造ノ種類、個數及ヒ記號

二 到達地

三 荷受人ノ氏名又ハ商號

四 送狀ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第三百十七條 運送人ハ荷送人ノ請求ニ因リ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス  
貨物引換證ニハ左ノ事項ヲ記載シ運送人之ニ署名スルコトヲ要ス

附法 履行爲 運送營業 物品運送